

三宅 高等学校 令和7年度(2学年用)教科

教科：国語

科目：古典探究

対象学年組：第 2 学年 NK 組～ F 組

教科担当者：(F組：廣見)

使用教科書：(標準古典探究(第一学習社))

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】国語の知識や技能を身に付けるようにするとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。

【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力を伸ばし、伝え合う力を高め、考えを広げたり深めたりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 古典探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学期	「説話1」 「子本説話集・十訓抄・古今著聞集」 説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。積極的に説話を読み、内容について理解をふかめようとする。完了の助動詞を理解し、調べ、説明しようとする。	語句の量を増やし、語彙を豊かにする。主に助動詞について文語の決まりへの理解を深める。 説話の内容理解を深め、その滑稽味や登場人物の機転について、自分なりに内容をまとめて書き、説明する。	○	○		「読むこと」において、文語文法の知識に基づき、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	14
	定期考査			○			○	○		1
	「随筆1」 「徒然草・方丈記」 随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。積極的に随筆を読み、内容について理解をふかめようとする。完了の助動詞を理解し、調べ、説明しようとする。	語句の量を増やし、語彙を豊かにする。主に助動詞について文語の決まりへの理解を深める。 随筆の内容理解を深め、作者の観察眼によるものの見方や考え方を的確に捉える。自分なりに徒然草と方丈記を読み比べ、内容をまとめて書き、説明する。		○		「読むこと」において、文語文法の知識に基づき、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	14
	定期考査			○			○	○		1
2 学期	「物語1」 「伊勢物語・竹取物語」 物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。積極的に物語を読み、内容について理解をふかめようとする。和歌の決まりや表現を調べ説明しようとする。	語句の量を増やし、語彙を豊かにする。主に和歌について文語の決まりへの理解を深める。 物語の内容理解を深め、登場人物の心情の動きについて、自分なりに内容をまとめて書き、説明する。	○			「読むこと」において、文語文法の知識に基づき、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	14
	定期考査			○			○	○		1
	「随筆2」 「枕草子」 随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。積極的に随筆を読み、内容について理解をふかめようとする。日本と中国の文化の違いを調べ、説明しようとする。	語句の量を増やし、語彙を豊かにする。主に助動詞について文語の決まりへの理解を深める。 随筆の内容理解を深め、作者の観察眼によるものの見方や考え方を的確に捉える。中国文化の影響について調べ、内容をまとめて書き、説明する。		○		「読むこと」において、文語文法の知識に基づき、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	14
	定期考査			○			○	○		1
3 学期	「漢文1」 「故事、寓話」 故事、寓話という文章の種類や構成や展開を的確に捉える。積極的に漢文を読み、内容について理解をふかめようとする。故事成語の意味を進んで調査し、その内容を説明しようとする。	語句の量を増やし、語彙を豊かにする。主に句形や訓読の決まりへの理解を深める。故事成語の内容理解を深め、ものの見方や考え方を的確に捉える。中国文化の影響について調べ、内容をまとめて書き、説明する。		○		「読むこと」において、文法の知識に基づき、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	5
	「漢文1」 「三国志の世界」 史伝という文章の種類や構成や展開を的確に捉える。積極的に漢文を読み、内容について理解をふかめようとする。時代背景や歴史上の人物の言動を進んで調査し、その内容を説明しようとする。	語句の量を増やし、語彙を豊かにする。主に句形や訓読の決まりへの理解を深める。史伝の内容理解を深め、ものの見方や考え方を的確に捉える。中国文化の影響について調べ、内容をまとめて書き、説明する。		○		「読むこと」において、文法の知識に基づき、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	5
	定期考査			○			○	○		合計 70

年間授業計画

三宅 高等学校 令和7年度（2学年用）教科 国語 科目 論理国語

教 科： 国語 科 目： 論理国語 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 N 組～ F 組

教科担当者：（N・K組：坂田）（F組：坂田）（F組：坂田）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（ 論理国語（大修館） ）

教科 国語 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、ことばに対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の国語の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 読・加 書・読			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
	評論の基本的な読み方を学ぶ	世界を広げる「批評」の言葉／対話の精神／自己をモデル化する知能				○ 【知識・技能】 対比などの文章構造を理解できている。 論理展開が明快な文章を読むことができる。 【思考・判断・表現】 筆者の主張をもとに、自分の考えを深め、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 本文の内容について話し合い、話し合った内容を自分の言葉でまとめようとしている。	○	○	○	9
	評論読解Ⅰ	ミロのヴィーナス／余白の美学				○ 【知識・技能】 評論の基本的な読み方を理解できている。 【思考力・判断力・表現力】 内容や構成を的確に捉え、自分の考えを深めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 複数の文章を比較し、自分の考えをまとめることができる。	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1
	評論読解Ⅱ	家族化するペット／コミュニティから見た日本／人工知能の可能性と畏				○ 【知識・技能】 文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて理解することができる。 【思考・判断・表現】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論旨を把握することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 本文の内容を踏まえて、筆者の主張についての自分の考えをまとめることができる。	○	○	○	9
1 学 期	様々な文章を書く	具体的・抽象的に書く／統計資料から分析したことを書く／立場を明確にして書く				○ 【知識・技能】 情報収集の方法や注意事項について理解している。 【思考力・判断力・表現力】 様々な観点から情報を収集しようとしている。また収集した情報をもとに、自分の立場や論点を明確にして文章を書くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報を収集し、新たな問いを設定して文章を書くことができる。	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1

2 学 期	言葉について考える	敬語への自覚、他者への自覚／ 「方言コスプレ」現象／情報を集 めて分類する／言葉の変遷				○				9
	評論読解Ⅲ	スキーマと記憶				○				5
	定期考査						○	○		1
3 学 期	評論読解Ⅳ	絵を見る技術／デジタル地図から 見える世界				○				9
	現代社会を読む	社会的実在としての言語・法・貨 幣				○				5
	定期考査						○	○		1
3 学 期	評論読解Ⅴ	分かち合う社会／世界は、いまー 「多文化世界」の構築／グローバ リゼーションと文化				○				9
	定期考査						○	○		1
										合計
										70

地理歴史 科目 地理総合

单位数： 2 单位

使用教科書：（地理総合（東京書籍）、新詳高等地図（帝国書院））

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

の目標：

合計
70

年間授業計画

三宅高等学校 令和7年度（2学年用）教科 公民 科目 公民

教科：公民 科目：公民

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 F組～NK組

教科担当者：（F組：土田）（NK組：土田）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（高等学校 公民（実教出版））

教科 公民 の目標：
【知識及び技能】選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解する
【思考力、判断力、表現力等】現代の諸課題について、事実に基づき適切な情報を活用して多面的・多角的に考察し、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う
【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断のための概念や理論を理解するとともに、情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価標準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【青年期と社会参画】 青年期における自己と社会のあり方の理解に基づき、社会に参画する自立した主体としてのあり方・生き方について自分の意見を表現することを通じて社会形成とそれに結び付く、みずからのキャリア形成について理解する。	1 私たちの生きる現代社会 2 青年期について考えよう 3 悩むことについて考えよう 4 ジェンダーについて考えよう 5 学ぶことについて考えよう 6 社会参画とキャリアについて考えよう	【知識・技能】 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、みずからのキャリア形成と共によりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 【思考・判断・表現】 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	7
	【宗教・思想・伝統文化と社会】 私たちが生きる社会を形成する伝統や文化、宗教、古来の日本人の考えなどへの理解に基づき、私たちはお互いの立場を理解し合う社会的な存在であることについて自分の意見を表現することを通じてみずからの価値観や他者の価値観、それらを形成する背景や要因について理解する。	1 宗教について考えよう 2 日本の思想について考えよう 3 日本の伝統と文化について考えよう	【知識・技能】 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取り組みや知恵に触れたりすることなどを通して、みずからの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができる存在であることについて理解している。 【思考・判断・表現】 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	【倫理的な見方・考え方】 先哲の考え方の理解に基づき、公共的な空間における人間としてのあり方・生き方について自分の意見を表現することを通じて、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する	1 よく生きる 古代ギリシャの思想 2 人とは何か 古代中国の思想 3 動機と結果 近代西洋の思想 4 公平と正義 現代の思想	【知識・技能】 選択・判断の手がかりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 【思考・判断・表現】 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、みずからも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	6
	【社会の基本原則と憲法の考え方】 公共的な空間における基本原則としての日本国憲法の考え方の理解に基づき、個人と社会の関係等について自分の意見を表現することを通じて、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定等の大切さ、公共的な空間に生じる課題を探究することの大切さ等について理解する。	1 近代立憲主義の原理 2 近代立憲主義の広がり 3 日本国憲法 4 平等に生きる権利 5 自由に生きる権利① 6 自由に生きる権利②	【知識・技能】 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作るうえで必要であることについて理解している。 【思考・判断・表現】 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1

2 学 期	【社会の基本原則と憲法の考え方】 ※前項目と同様	7 人間らしく生きる権利 8 広がる人権の考え方 9 人権保障の国際的な広がり	※前項目と同様	○	○	○	5
	【法の意義と司法参加】 法の基本的な考え方に関する正確な理解に基づき、身近な主題についてさまざまな考え方を踏まえて判断し、みずからの意見や主張を表現することを通じて、法の意義や司法参加について関心を高める。	1 社会規範と法 2 私たちの生活と法 3 契約の考え方 4 消費者の権利と責任 5 司法の役割 6 刑事裁判とその課題	【知識・技能】 法や規範の意義および役割、多様な契約および消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きにのっとり、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。①現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した法的主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 自立した法的主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 法や規範の意義および役割、多様な契約および消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	【民主社会と政治参加】 さまざまな意見や利害を調整するという政治の意義や統治機構のしくみの正確な理解に基づき、よりよい社会を構成するための取り組みについて、自分の意見を表現することを通じて、政治参加と公正な世論の形成、地方自治等について理解する。	1 政治と権力 2 議院内閣制と国会 3 権力分立と行政の役割 4 地方自治の役割 5 政党政治とメディア 6 選挙制度とその課題	【知識・技能】 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれていくものであることについて理解している。 【思考・判断・表現】 自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	6
	【国際政治の動向と平和の追求】 国家主権や国際法によって成立する国際社会の正確な理解に基づき、日本の固有の領土に残る問題の平和的な解決や安全保障、国際連合における国際貢献について、みずからの意見や主張を表現することを通じて、国家主権、領土、日本の安全保障と防衛、国際社会における日本の役割などについて理解する。	1 国家と国際法 2 日本の主権と領土 3 平和主義と日本の防衛政策 4 これからの日本の安全保障 5 国際連合の役割と活動 6 紛争とテロリズム 7 核兵器と軍縮の課題 8 国際協力と日本の役割	【知識・技能】 国家主権、領土（領海、領空を含む）、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。 【思考・判断・表現】 自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 国家主権、領土（領海、領空を含む）、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科		地理歴史	科目	日本史探究
教 科：	地理歴史	科 目：	日本史探究	単位数： 4 単位
対象学年組：	第 2 学年	組～	組	
教科担当者：	（F組： 石川 （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）			
使用教科書：	（ 日本史探究 詳説日本史（山川出版社）			）
教科 地理歴史	の目標：			
【知識及び技能】	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。			
【思考力、判断力、表現力等】	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。			
【学びに向かう力、人間性等】	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
科目 日本史探究	の目標：			

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 国家と文化の形成 古代国家の確立 【知識及び技能】 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立に至る時期の日本列島の歴史的環境と文化の形成とを関連付けて時代の転換を理解させる。また、古代の国家や社会の展開について、理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 原始社会の特色や古代の国家や社会との関わりについて多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら問いを設定し、教科書や図表などの資料料を活用して、背景と影響、意義、類似性、見通し、自己との関わりなどを調べて、解決させる。	・指導項目 列島にくらしはじめた人々 農耕がうまれる クニがうまれる ヤマト政権の形成 倭の五王と氏姓制度 飛鳥の朝廷 大化改新から壬申の乱へ 律令国家の形成 東アジアのなかの天平文化 奈良時代の政治と社会 平安時代初期の政治と文化 摂関政治と国風文化 摂関期の社会と経済 ・教材 教科書 ワークシート その他 ・ICT機器やタブレット端末の活用	【知識・技能】 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解している。国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解している。貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解している。 【思考・判断・表現】 原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性など多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 原始社会の特色や古代国家や社会との関わりについての理解や考察などを踏まえ、資料を扱う技能を活用し、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を交えて、相互に表現する	○	○	○	25
	定期考査			○	○	○	1
	B 単元 中世社会の成立 中世社会の展開 【知識及び技能】 中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・古代から中世への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し、探究に向けた時代を通観する問いを表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら問いを設定し、教科書や図表などの資料料を活用して、背景と影響、意義、類似性、見通し、自己との関わりなどを調べて、解決させる。	・指導項目 院政と中世荘園 奥州藤原氏と平氏 治承・寿永の乱と鎌倉幕府 承久の乱と公武関係 地頭・御家人と荘園制の変質 鎌倉時代の経済・産業と自然環境 モンゴル襲来と日宋・日元交流 社会の変動と鎌倉幕府の滅亡 南北朝の内乱 足利義満と室町幕府 東アジアの海をゆきか人々 惣村と一揆 室町・戦国時代の流通経済 戦国時代の政治と社会 ・教材 教科書 ワークシート その他 ・ICT機器やタブレット端末の活用	【知識・技能】 ・貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。 ・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 ・古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・中世の特色についての考察などを踏まえ、武士の政治への関与が社会にもたらした変化や南北朝の争いが室町幕府にもたらした変容など、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現する。	○	○	○	25
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	C 単元 統一政権の成立 幕藩体制の展開 【知識及び技能】 中世から近世への時代の転換を理解させる。幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現させる。近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら問いを設定し、教科書や図表などの資料料を活用して、背景と影響、意義、類似性、見通し、自己との関わりなどを調べて解決させる。	・指導項目 南蛮との出逢い 織豊政権の全国統一 東アジアの変動と豊臣政権 江戸幕府の支配のしくみ 江戸時代の対外関係 身分制と村・町的生活 幕府政治の転換 産業の発展 交通網の発達と都市に繁栄 徳川吉宗・田沼意次と財政問題 商品経済の発達と民衆運動 寛政の改革と欧米 諸国の日本接近 江戸時代後期の学問・文化 天保の改革 ・教材 教科書 ワークシート その他 ・ICT機器やタブレット端末の活用	【知識・技能】 中世から近世への時代の転換を理解している。幕藩体制の確立、産業の発達、近世の社会と文化の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 近世の特色についての考察などを踏まえ、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し、それらの疑問を基に、教師が問いかけを行うなどして、近世の特色について課題意識をもてる。それらを踏まえて、生徒が、近世の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現できるよう学習を深めよう。	○	○	○	35
	定期考査			○	○	○	1

学 期	D 単元 大日本帝国の展開 大日本帝国とテモクラシー 【知識及び技能】 近世から近代への時代の転換を理解させる。日清・日露戦争、第一次世界大戦での影響、その後の国際秩序について確認させる。 【思考力、判断力、表現力等】 近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現させる。時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現させる。近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関する諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現させる。近現代がどのような時代であったかを構造的にとらさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 自ら問いを設定し、教科書や図表などの資料を活用して、背景と影響、意義、類似性、見通し、自己との関わりなどを調べて、解決させる。	・指導項目 開国 倒幕とええじゃないか 明治維新 文明開化 富国強兵 国境の画定 自由 民権運動 大日本帝国憲法 日清戦争 1900年前後の世界と東アジア 日露戦争 社会問題と地域社会 対象デモクラシー 第一次世界大戦と日本 資本主義の成長 改造の時代 植民地 ・教材 教科書 ワークシート その他 ・ICT機器やタブレット端末の活用	【知識・技能】 立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解している。【思考・判断・表現】 近代の政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 近代の特色についての考察などを踏まえ、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し、それらの疑問を基に、教師が問いかけを行うなどして、近代の特色について課題意識をもてる。それらを踏まえて、生徒が、近代の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現できるよう学習を深めている。	○	○	○	30
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	E 単元 アジアの戦争と第二次世界大戦 現代日本社会形成と展開【知識及び技能】 近代から現代に至る国家や社会の展開について、とくにアジア太平洋戦争へ至る過程と大戦中の政治、社会、国民生活の変容を理解させる。占領から国際社会への復帰、日本国憲法の成立、高度経済成長について、世界の中の日本の視点から理解させる。【思考力、判断力、表現力等】 近現代がどのような時代であったか、また、現代日本の課題はどのようなものか、時代の転換に着目して、多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現させる。【学びに向かう力、人間性等】 自ら問いを設定し、教科書や図表などの資料を活用して、背景と影響、意義、類似性、見通し、自己との関わりなどを調べて、解決させる。	・指導項目 普通選挙と治安維持法 大日本帝国の選択 沢村 満洲事変とモダニズム 日中戦争と総力戦 アジア太平洋戦争 敗戦 世界の中の日本 占領 占領改革と日本国憲法 朝鮮戦争 日米安保体制と55年体制 高度経済成長 ベトナム戦争とアジア 経済大国 世界の転換と日本社会 グローバル化する世界と日本 「わたしたち」の社会と世界 ・教材 教科書 ワークシート その他 ・ICT機器やタブレット端末の活用	【知識・技能】 軍部の台頭や対外政策、第二次世界大戦の展開と敗戦、占領政策と日本国憲法の成立、国際社会への復帰、高度経済成長などをともに、大戦中の政治、社会、国民生活の変容や我が国の再出発と現代の政治の枠組み、国民生活の変容を理解している。 【思考・判断・表現】 第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、冷戦の影響、グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の変容、戦後政治の展開、日本経済の発展、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。【主体的に学習に取り組む態度】 アジア太平洋戦争から現代の特色についての考察などを踏まえ、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し、それらの疑問を基に、教師が問いかけを行うなどして、アジア太平洋戦争から現代の特色について課題意識をもてる。それらを踏まえて、生徒が、アジア太平洋戦争から現代の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現できるよう学習を深めている。				20
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							140

三宅高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学B

教科 数学 科目 数学B 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 F 組～ 組

教科担当者：（F組：鈴木） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ 数研出版 最新 数学B ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】基本的な公式、計算ができるようになる。

【思考力、判断力、表現力等】問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】多くの問題が解けるように努力したり、他者とどのように問題を解いたのか共有することができるようになる。

科目 数学B の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基本的な公式、計算ができるようになる。	問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。	多くの問題が解けるように努力したり、他者とどのように問題を解いたのか共有することができるようになる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	数列とその和について理解し、問題を解くことができる。	数列 等差数列 等差数列の和 等比数列 等比数列の和 和の記号 自然数の2乗の和	発問 話し合いでの取り組み 提出物	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	漸化式を数学的帰納法について理解し、問題を解くことができる。	漸化式と一般公 数学的帰納法	発問 話し合いでの取り組み 提出物	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学 期	確率分布について理解し、問題を解くことができる。	確率変数と確率分布 確率変数の期待値 分散と標準偏差 二項分布 連続型確率変数 正規分布 二項分布の正規分布による近似	発問 話し合いでの取り組み 提出物	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	統計的な推測について理解し、問題を解くことができる。	母集団と標本 標本平均の分布 母平均の推定 母比率の推定 仮説検定	発問 話し合いでの取り組み 提出物	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
3 学 期	数学を用いた考察ができ、問題を解くことができる。	ごみの量の推定 シェアサイクルについて	発問 話し合いでの取り組み 提出物	○	○	○	10
	社会で用いられる数値や指標について理解し、問題を解くことができる。	偏差値 選挙における議席配分	発問 話し合いでの取り組み 提出物	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
							合計 70

年間授業計画

三宅 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 理科 科目 地学基礎

教 科： 理科 科 目： 地学基礎

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 NK 組～ F 組

教科担当者：加藤 千鶴

使用教科書：（ 高等学校 地学基礎 第一学習社 ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】自然現象に関する概念や原理・法則を理解し、探究に必要な技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然現象に対して、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然現象に主体的に関わり、課題を解決する態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 地学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
観察、実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 地学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付けている。	地学的な事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断したことを、言語活動を通じて表現する。	地学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 地球のすがた 第1節 地球の概観 地球の測定方法や回転楕円体であることを理解させる。地球の内部構造について学習し、マントルの動きについて理解させる。	・地球の形と大きさ 地球の形や大きさについて、エラトステネスの測定方法を学習する ・地球の形の特徴と大きさ 地球が赤道方向に膨らんだ回転楕円体であることを学習する。 ・地球の内部構造 地球内部の層構造について、構成する物質や性質の違いなど、各層の特徴を理解する。 ・地球内部の動き 地球表層部のかたさによる区分とマントル内の動きについて学習する。	【知識・技能】 エラトステネスの測定法をもとに、計算によって地球の大きさを求めることができる。地球が回転楕円体であることを理解している。地球の層構造、地球内部の構成物質や性質の違いを理解し、地球内部の動きを知識として身に付けている。 【思考・判断・表現】 地図を利用した実習を行うことによって、地球の正確な形を考察することができる。地球を構成する元素を示すグラフを判読し、地球内部の構成物質の違いについて考察することができる。岩石と鉄の密度を調べる実験を通して、地球内部の各層の密度の違いを比較することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学的な知識から、地球の形や大きさについて与えられた課題の解決を図ろうとしている。中学で学んだ岩石の知識をもとに、地球内部の物質の違いについて理解を深めようとしている。直接調べることができない地球内部のようすについて、科学的根拠をもとに考察を進め、課題や疑問を見いだしている。	○	○	○	5
	第2節 プレートの運動 プレートの種類や教会について理解させる。また、プレートの動きと断層が関連していることを理解させる。	・プレートの分布と運動 世界のプレートの分布を学び、海洋と大陸でのプレートの厚さや動きの違いを理解する。 ・プレートの境界 プレートの3つの境界と、それぞれの境界に見られる地形の特徴を学習する ・地殻の変動と地質構造 断層や褶曲の形成状況について考え、これをプレートの動きとの関連で理解する。 ・変性作用 プレートの動きに伴って、地下で形成された変成岩を中心に、岩石の変成作用について学習する ・大地形の形成 造山帯の形成について考え、大陸地殻の形成・成長過程を学習する。	【知識・技能】 プレートの種類と世界のプレートの分布を理解している。変成岩を、組織や鉱物の種類から分類することができる。世界の大山脈が、プレートの収束境界で生じた造山運動で形成されたことを理解している。 【思考・判断・表現】 プレートの動きから、プレート境界で見られる地形的な特徴を説明することができる。断層や褶曲を、その形態から分類し、どのように形成されたかを考察できる。沈み込み帯と衝突帯で形成された大山脈の違いを比較し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 中学で学習したプレートの概念を、より正確なものとして体系的に理解しようとしている。 ・身近な断層や褶曲、変成岩に興味をもち、その形成について考察し、理解を深めようとしている。プレートの運動から造山帯の形成を統一的に説明するため、プレートの動きや構成する岩石の種類、地質構造を検討して、課題を見だし、解決しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	第2章 地球の活動 第1節 地震	・地震の発生と分布 地震の発生のしかたについて考え、世界の地震の分布の特徴を理解する。 ・地震はの伝わり方 地震波の特徴を学び、震源の決定のしかたを理解する。 ・日本付近で発生する地震 日本付近の地震の分布とプレートとの関連や、日本付近で発生する地震のタイプについて学習する	【知識・技能】 世界と日本付近における地震の分布について、プレート境界との関係などの特徴を理解している。大森公式をもとに、初期微動継続時間から震源までの距離を計算によって求めることができる。日本付近の地震について、プレートの動きと関連付けて、発生のしくみや特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 世界の地震の分布から、地震の発生とプレートの分布や運動との関連を説明することができる。日本付近の地震の分布図を利用した実習を行うことによって、日本付近の地震の特徴を見いだすことができる。日本付近の地震の分布図および南海地震前後の室戸岬の変動を示すグラフから、地震のおこるしくみについて考察することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 中学で学習した地震の知識をもとに、地震の分布の特徴や、震源の決定のしかたについて理解を深めようとしている。地震の分布や地下のプレートに関する資料から、地震の発生とプレートの動きとの関連について検討して、課題や疑問を見いだしている。	○	○	○	4

第2節 火山活動 火山が形成される仕組みについて、前節のプレートと関連づけ、理解させる。また、噴火の仕組みや性質、地形との関係について理解させる。火成岩の種類について理解させる。	・火山の分布 世界の火山分布と日本の火山分布について学習する。 ・火山の形成とマグマ 火山が形成されるしくみについて、プレートと関連付けて、地域の特徴などを理解する。 ・火山の噴火 噴火のしくみや火山噴出物について学習する。マグマの性質と噴火の様式の関係について学習する。 ・火山の地形 マグマの性質と火山の形の関係について学習する。 ・火成岩の形成 火成岩のさまざまな産状や、観察される組織について学習する。 ・火成岩の種類 火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し、火成岩の分類について理解する。	【知識・技能】 世界および日本の火山分布や、火山の形成される地域のプレートの分布などの特徴を理解している。火山噴出物の種類や、マグマの性質と噴火の様式および火山の形の関連について理解し、知識として身に付けている。双眼実体顕微鏡による火山灰の観察では、火山灰を採取し、実体顕微鏡を操作してスケッチ、写真撮影を行い、鉱物や火山ガラスの特徴をとらえられる。偏光顕微鏡による火成岩の観察では、プレパラートの作成から準備し、偏光顕微鏡を操作してスケッチし、岩石名を決定することができる。火成岩の組織と、岩石中に含まれる造岩鉱物の量をもとにして、岩石名を判断することができる。 【思考・判断・表現】 世界および日本の火山分布から、火山の形成とプレートの分布や運動との関連を説明することができる。マグマの性質と噴火の様式や火山の形を示す表から、実際の火山について、噴火のしかたやその形とマグマの性質との関連を考察することができる。双眼実体顕微鏡による火山灰の観察を通して、火山噴出物と溶岩の性質との関係について考察することができる。偏光顕微鏡による火成岩の観察を通して、組織の違いなどを比較し、火成岩のなりたちについて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 中学で学習した火山活動や火成岩の知識をもとに、理解を深めようとしている。世界および日本の火山分布や地下のプレートに関する資料から、火山の形成とプレートの分布や運動との関連について検討して、課題や疑問を見いだしている。火成岩の産状や分類に関心をもち、偏光顕微鏡による火成岩の観察などを通して、火成岩のなりたちについて理解を深めようとしている。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1
第3章 大気と海洋 第1節 地球のエネルギー収支 大気の組成や温度との関係について理解させる。太陽放射や地球放射について理解させる。	・大気の構成と特徴 大気の組成や圧力を学習する。高度の変化に伴う気温の変化と大気圏区分の関係を学習し、大気圏の構造を理解する ・対流圏における水の変化 x 大気中の水の変化について学習し、雲の発生と降水のしくみについて理解する。 ・太陽放射と地球放射 太陽放射と地球放射について学習する。 ・地球を出入りするエネルギー 地球のエネルギー収支や、温室効果や放射冷却について学習する。	【知識・技能】 大気圏の構造の特徴や大気中で見られる現象を理解し、知識として身に付けている。高度別の気温のデータから、グラフを作成し、気温減率を計算によって求めることができる。飽和水蒸気圧と温度との関係を示すグラフから、相対湿度を計算によって求めることができる。太陽放射と地球放射のエネルギーを示すグラフを判読し、それらを比較することができる。地球のエネルギー収支について理解し、温室効果や放射冷却についての知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 大気圏の構造を示すグラフを判読し、大気圏が高度による気温の変化にもとについて区分されていることを確認することができる。太陽放射と地球放射の波長とエネルギーのグラフから、太陽放射と地球放射を比較し、説明することができる。地球のエネルギー収支の図から、地球の温度が安定している理由を考察し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 中学で学習した大気圧の知識をもとに、高度の変化に伴う気圧の変化について理解しようとしている。大気圏の構造の特徴に興味をもち、各種の気象情報をもとに考察して、課題や疑問を見いだしている。地球のエネルギー収支の平衡について関心をもち、太陽放射と地球放射の特徴や、温室効果・放射冷却などの現象との関連について考察し、理解を深めようとしている。	○	○	○	5
第2節 大気と海水の運動 風が起こる仕組みや大気の大循環について理解させる。また、海洋の構造や循環について理解させる。	・エネルギー収支の緯度分布 緯度ごとのエネルギー収支を学習し、南北の熱の輸送について理解する。 ・風 風がおこるしくみについて理解する。 ・大気の大循環 中緯度・高緯度地域の大気の大循環について理解する。 ・海洋の構造 海水の塩分と温度について学習し、海洋の層構造を理解する。 ・海洋の大循環 海洋の表層の循環と深層に及ぶ循環について学習する。 ・エルニーニョ現象とラニーニャ現象 低緯度地域の大気のエールニーニョ現象とラニーニャ現象について学習する。大循環について理解する	【知識・技能】 データをもとに、緯度ごとのエネルギー収支のグラフを作成することができる。風が吹くしくみを理解し、海陸風、季節風、偏西風の違いを知識として身に付けている。海水の塩分と温度について理解し、海洋の層構造を知識として身に付けている。塩水を用いた実験では、海洋で海水が形成されるようすを再現し、液体の塩分を計算することができる。緯度ごとのエネルギー収支について理解し、地球規模の大気と海洋の循環や大気と海洋の相互作用について、知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 緯度ごとのエネルギー収支のグラフから低緯度地域の熱が高緯度地域へ輸送されていることを考察できる。気象衛星画像から、雲の分布を判読し、大気の大循環との関連を考察することができる。海面水温の分布の図から、特徴を見だし、考察することができる。塩水を用いた再現実験を通して、水の形成前後の塩分の変化から、海洋の深層に及ぶ循環のしくみについて考察することができる。エルニーニョ現象やラニーニャ現象が発生したときに、日本の気候に与える影響について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 緯度によるエネルギー収支、地球規模の大気の大循環に関心をもち、地球の大気に吸収された太陽エネルギーのゆくえと、その働きについて意欲的に学習しようとしている。地球規模の海洋の大循環に関心をもち、海水の塩分や温度、海洋の構造と関連させて、表層循環と深層に及ぶ循環について理解を深めようとしている。大気と海洋の相互作用に関心をもち、エルニーニョ現象やラニーニャ現象についての学習を通して、理解を深めようとしている。	○	○	○	7
定期考査			○	○		1

2 学 期	第4章 宇宙と地球 第1節 宇宙と太陽の誕生	・宇宙の探究 宇宙の探究についての歴史を学習する。 ・宇宙の始まり ビッグバンや元素の誕生について学習し、宇宙の始まりを理解する。恒星や銀河について学習し、銀河系の構造を理解する ・太陽の誕生 太陽の誕生について学習し、現在の太陽の特徴を理解する。 ・太陽の活動 現在の太陽の表面や外層でおこっている活動について学習する	【知識・技能】 宇宙の誕生過程を理解し、ビッグバンや宇宙の晴れ上がりなどの現象について知識を身に付けている。絶対温度Kについて理解している。銀河系の構造について、バルジやディスク、ハローを区別できる。太陽の誕生過程や、太陽の活動について理解し、知識として身に付けている。星団の観察を通して、星団の位置を確認することができる。天体望遠鏡を用いて、太陽の黒点を観察し、移動のようすや数・形の変化などを記録することができる 【思考・判断・表現】 宇宙の始まりの図を用いて、ビッグバンから宇宙の晴れ上がりまでのストーリーを説明することができる。銀河系の構造図から、私たちの住む太陽系がどのくらいの大きさなのか考察することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 宇宙の始まりに関心を持ち、現在のすがたに至るまでの過程について意欲的に探究しようとしている。中学で学習した太陽や銀河系の知識をもとに、太陽の活動や銀河系の構造などについて理解を深めようとしている。太陽に関心を持ち、地球上にさまざまな影響を与える太陽の活動やエネルギーについて意欲的に探究しようとしている。	○	○	○	5
	第2節 太陽系と地球の誕生 太陽系について学習し、惑星の形成過程や違いについて理解させる。地球に生命が誕生した条件について理解させる。	・太陽系の構造 太陽系を構成する天体について学習する。 ・太陽系の誕生 太陽系、地球型惑星、木星型惑星の誕生過程について学習する。太陽系的小天体について、形成過程や起源物質などの特徴を学習する。 ・太陽系の惑星地球型惑星と木星型惑星の環境や特徴について学習し、違いを理解する ・生命の惑星・地球 生命が存在する条件について学習し、地球だけに生命が誕生した理由を理解する。原始地球の進化の過程について学習し、原始地球の環境変化を理解する	【知識・技能】 太陽系を構成する天体の誕生過程や起源などそれぞれの特徴について理解し、知識として身に付けている。天体顕微鏡を用いた木星の観察を行うことによって、衛星が木星のまわりを公転していることを確認することができる。惑星の環境の違いを生じさせる要因について理解し、地球にだけ生命が存在する条件を知識として身に付けている 【思考・判断・表現】 太陽系の形成時の位置や質量などの違いと関連させて、地球型惑星と木星型惑星の内部構造の違いについて考察することができる。太陽系的小天体の起源や特徴を比較し、違いを説明することができる。太陽系の惑星の環境を比較し、その違いを生じさせる要因と関連させて、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 中学で学習した太陽系についての知識をもとに、太陽系を構成する天体とその誕生過程に関心を持ち、太陽系の成り立ちについて意欲的に学習しようとしている。地球だけに生命が存在する理由に関心を持ち、太陽系の惑星の環境を変化させる要因について考察し、課題や疑問点を見いだして意欲的に探究しようとしている。	○	○	○	5
	第5章 生物の変遷と地球環境 第1節 地層と化石 地層の形成の仕組みや堆積岩について理解させる。化石の形成過程について理解させる。	・地層の形成 風化のしくみや河川の働き、地層の形成について学習する。 ・地層の重なりと広がり 地層の重なり、かき層による地層の対比について学習する。 ・堆積岩 続成作用、堆積岩の種類について学習する。 ・化石と地質時代 化石のでき方、有効な示相化石と示準化石の特徴、相対年代と数値年代の違いを学習する。	【知識・技能】 河川の働きと地層の形成を学習して、地層の重なりやかき層による地層の対比について理解し、知識として身に付けている。露頭の写真から、不整合面を確認することができる。堆積岩の観察では、堆積物の種類などによって堆積岩を分類できる。化石と地質時代の区分について理解し、知識を身に付けている。化石による地質時代の区分を行う実験では、スケッチを行って特徴を見だし、化石を分類することができる。 【思考・判断・表現】 地層の重なりや観察される特徴、含まれる化石などから、堆積環境や過去の地殻変動について考察することができる。化石による地質時代の区分を行う実験では、化石の種類と与えられた資料から、化石の生物が生息していた地質年代を推測することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地層や堆積岩の形成に関心を持ち、堆積環境や過去の地殻変動を調べる方法を意欲的に習得しようとしている。地球の環境と生物の変遷に関心を持ち、中学で学んだ地層や化石の知識をもとに、地質時代のできごとを説明する方法について理解を深め、意欲的に習得しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	第2節 地球と生物の変遷 地球形成後から生命誕生までの流れ、各年代での特徴について理解させる。	・先カンブリア時代 冥王代～太古代の地球環境と生物の変遷を学習し、初期の地球の環境や生物の出現について理解する。原生代の地球環境と生物の変遷を学習し、大気の変化が地球環境や生命活動へ与えた影響を理解する。 ・古生代 カンブリア紀～デボン紀の地球環境と生物の変遷を学習し、生物の陸上進出に必要な環境を理解する。石炭紀～ペルム紀の地球環境と生物の変遷を学習し、大気の変化が地球の環境に与えた影響を理解する。 ・中生代 中生代の地球環境と生物の変遷を学習する。 ・新生代 古第三紀～新第三紀の地球環境と生物の変遷や、人類の出現について学習する。第四紀の地球環境と生物の変遷や、人類の進化について学習する。	【知識・技能】 先カンブリア時代から新生代第四紀までの、地球環境の変化と生物界の変遷を理解し、知識を身に付けている。地質時代カレンダーを作成し、地学的なタイムスケールを理解している。 【思考・判断・表現】 地球の酸素濃度や二酸化炭素濃度のグラフから、生物の進化や絶滅と地球環境の変化との関連について考察することができる。海水面の変化を示すグラフを判読し、氷期・間氷期の繰り返しと、海水面の下降・上昇の変化との関係を確認することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 中学で学習した生物の進化に関する知識をもとに、地質時代の生物界の移り変わりについて理解を深めようとしている。地球環境と生物の変遷に関心を持ち、環境変化と生物の進化や絶滅との関連について考察し、課題や疑問点を見いだして、意欲的に探究しようとしている。	○	○	○	8

3 学 期	第6章 地球の環境 第1節 地球環境の科学 地球の気候変動と人間生活の関係について理解させる。	・気候変動 ・地球温暖化による変化 地球の気候変動や地球温暖化について学習し、地球温暖化による地球環境の変化や、人間生活との関わりを理解する。 ・オゾン層の変化 オゾン層の変化について学習し、オゾンホール形成と人間生活との関わりを理解する。	【知識・技能】 地球の気候変動やオゾン層の変化について、環境への影響や人間生活とのかかわりを理解し、知識として身に付けている。世界の平均気温のデータから、平均気温の上昇率を計算によって求めることができる。 【思考・判断・表現】 世界の平均気温の変化を調べる実習を行い、計算して求めた上昇率を比較し、地球温暖化が実際に起きていることを見いだすことができる。地球温暖化に関する資料を判読し、地球温暖化の原因や、環境への影響や人間生活との関わりについて、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地球の気候変動やオゾン層の変化に関心を持ち、地球温暖化などの地球の環境変化と人間生活とのかかわりについて理解を深めようとしている。	○	○	○	3
	第2節 日本の自然環境 日本の四季や天気の特徴、気象災害について理解させる。地震や火山災害について学習し、その重大性について理解させる。	・自然の恩恵 日本における自然の恩恵について学習し、日本の資源について理解する。 ・季節の変化 日本付近の気団や四季の天気の特徴を学習する。 ・気象災害 日本で発生する気象災害について学習する。土砂災害の発生形態による区分を学習する。日本の気象災害への対策について学習する。 ・地震災害 地震による被害の軽減 ・地震災害とその対策について学習する。液状化や津波の発生メカニズムについて学習する。 ・火山災害と防災 日本の火山災害とその対策について学習する	【知識・技能】 日本における自然の恩恵を理解し、日本の資源について知識を身に付けている。日本の四季の天気の移り変わりを理解し、衛星画像と天気図から、日本の特徴的な天気を判読することができる。日本で発生する災害やその対策について理解し、知識として身に付けている 【思考・判断・表現】 気象観測のデータから、大雨の際に身近にどのような災害が発生する可能性があるか予測し、被害を減らす方法について考察することができる。ハザードマップから、どのような災害が発生する可能性があるのか判読し、その対策について考察することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 中学で学習した日本の自然環境の知識をもとに、自然環境と人間生活とのかかわりについて理解を深めようとしている。自然災害の予測や防災に関心を持ち、自然災害の特徴や予測のしかた、また、対策として行われている取り組みについて意欲的に学習しようとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1 合計 70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 理科 科目 生物

教 科： 理科 科 目： 生物 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 F 組

教科担当者：加藤 千鶴

使用教科書：（ 生物 実教出版 ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】自然現象に関する概念や原理・法則を理解し、探究に必要な技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然現象に対して、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然現象に主体的に関わり、課題を解決する態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物や生物現象についての観察、実験などを行うことで生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技を身に付ける。	生物現象から、探究の過程を通して観察、情報収集、仮説設定、実験計画、検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を育む。	生物現象に主体的に関わり、気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。また、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	3 章 遺伝情報の発現と発生 1 節 遺伝情報とその発現 ・遺伝情報にしたがって特定のタンパク質が合成され、形質が発現することの概要について理解させる。 ・DNAの構造や複製、遺伝暗号、DNAの遺伝情報に基づくタンパク質の合成や形質発現などのしくみを理解させる。 ・遺伝子は様々な要因によって異なるものが発現するよう調節されることで、細胞の分化や形態形成が起こることについて理解させる。 ・真核生物では、スプライシングによって遺伝子の数よりはるかに多い種類のタンパク質が合成されることを理解させる。	・DNAと染色体 ・DNAの複製 ・遺伝子の発現 ・遺伝子の発現調節	【知識・技能】 ・DNAが遺伝子として働くしくみや、RNAがタンパク質合成に関与しているしくみを理解している。 【思考・判断・表現】 ・遺伝子の発現調節のしくみについて、調節遺伝子やプロモーター、転写調節領域などの語句を用いて、一連の流れを説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進化の学習をふまえて、藻類の光合成色素について理解し、主体的に学習しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	2 節 発生と遺伝子発現 ・受精では、生殖細胞の合体によって染色体数が復元し、新しい体細胞のもとができることを重点的に理解させる。 ・発生の過程では代表的な動物としてカエルを例にあげ、ヒトについても基本的なしくみは同じであることを理解させる。 ・器官形成は代表的なものについて把握させ、理解させる。 ・発生のしくみについては、誘導現象など代表的な例について理解させ、実験によってそのしくみが次第に明らかになってきた過程に重点をおいて探究的に考察させる。	・動物の配偶子形成と受精 ・初期発生の過程 ・発生のしくみと遺伝子発現 ・形態形成と遺伝子の発現調節	【知識・技能】 ・動物の配偶子のでき方を理解している。 ・発生のしくみについては、結果としてわかっていることを覚えてはいるだけでなく、実験によって、そのしくみが次第に明らかになってきた過程を理解している。 【思考・判断・表現】 ・生殖細胞がつくられる過程と意義を科学的に考察できる。 ・受精については、生殖細胞の合体により染色体数が復元し、新しい体細胞のもとができる過程として理解しようとする。 ・発生の過程が、ヒトをはじめとした多くの生物に共通するものであることを実証的・論理的に分析し、総合的に考察し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・動物の発生とそのしくみについては、ヒトとの共通点のあるカエルについて学習し、形態形成運動や誘導などの働きによって複雑なからだのつくりができていく過程を理解しようとする。	○	○	○	8
	3 節 遺伝子を扱う技術 ・バイオテクノロジーについては、遺伝子操作が様々な分野で研究手法として用いられていることを、実例を通して把握させる。 ・遺伝子組換えや組織培養、核移植、細胞融合などの技術が医療や有用物質の合成、作物の品種改良などに利用されていることを実例を通して把握させる。 ・バイオテクノロジーの利用については、まだ様々な課題があるので、その推進に当たっては十分な配慮が大切であることも理解させる。	・バイオテクノロジー ・バイオテクノロジーの応用	【知識・技能】 ・バイオテクノロジーの医療・農業等への応用されている事例や方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ・バイオテクノロジーの発達が人類の生活を豊かにする可能性があることを理解するとともに、そのマイナス面についても目を向け、考察し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・バイオテクノロジーについて関心をもち、生活にどのように役立っているのかを知ろうとする。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	1 章 生物の進化 1 節 生命の起源と細胞の進化 ・生命の起源、および生物の進化の過程を地球環境の変化にも触れながら、その概要をつかませる。	・生命の起源、化学進化 ・初期の生物 ・シアノバクテリアの出現と地球環境 ・細胞内共生説	【知識・技能】 ・生命の誕生に関する仮説について理解している。 【思考・判断・表現】 ・実際に確認できない長大なスケールの時間に対しても、対比をすることで概要を把握できる。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	6

			【主体的に学習に取り組む態度】 ・地球環境の変遷と生物の進化を総合的に理解しようとしている。				
	2節 遺伝子の変化と進化のしくみ ・遺伝子の変化を引き起こす突然変異について理解させる。	・遺伝子の変化 ・遺伝子の組合せの変化	【知識・技能】 ・DNAの塩基配列に生じる突然変異が、生物の形質にどのような変化をもたらすかを見いだして理解している。 【思考・判断・表現】 遺伝子が分配されるしくみである減数分裂について理解し、遺伝子の変化がどのように子に伝わるかを考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝子の連鎖と組換え、配偶子のもつ遺伝子の組合せの関係を総合的に理解しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
2学期	・生物の変異、進化の証拠やその要因、進化説などを理解させる。 ・集団遺伝については、平易な初歩的事項を理解させる。 ・分子進化のしくみについては簡単に把握させる。	・進化のしくみ	【知識・技能】 ・歴史的な進化説と現在の進化説の基本的な発想の視点を踏まえ、底流にある基本概念を把握している。 【思考・判断・表現】 ・遺伝子頻度がランダムに変化することを見だし、遺伝子頻度の変化と集団サイズの関係の的確に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現生種についての比較形態、比較発生、生物分布などの資料から進化の証拠を理解し、進化説の理解を深めようとする。	○	○	○	8
	3節 生物の系統と進化 ・生物の系統については、細胞の構造、細胞の構成成分、形態、生殖、発生、遺伝子の構造など生物のもつ様々な特徴の比較から生物の系統関係が明らかになったことを具体的な例を通して探究させる。 ・ドメインから種のレベルに至る分類の階層や、種の命名法についても具体的な例を示して把握させる。	・生物の系統と進化 ・人類の系統と進化	【知識・技能】 ・現在では系統に基づく視点からの分類法が最も妥当性があるものとして承認されているという事実を理解している。 【思考・判断・表現】 ・地質時代における生物の変遷を、化石にもとに考察し、環境の変化との関連を探究できる。また、霊長類現生種との形態比較から人類の進化を考察し、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物分類の必要性を理解し、その歴史的な大分類の視点がどこに置かれていたのかを把握しようとする。 ・現在の生物分類と系統を理解しようとする。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	2章 生命現象と物質 1節 細胞と分子 ・細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解させる。 ・脂質が細胞膜などの生体膜を構成する成分であることを、脂質の特徴とともに理解させる。 ・細胞が様々な形を保持できることに関連して、細胞骨格の働きを理解させる。	・細胞を構成する物質 ・生体膜の働きと細胞	【知識・技能】 ・生体膜の構造に関する学習を手がかりとし、細胞あるいは細胞小器官が生体膜によって独自の密閉空間をつくり、細胞内外の物質輸送を行っていることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・生物体にみられる様々な働きが、酵素による触媒作用をはじめとした、タンパク質の多様性および特異性に基いていることを科学的に考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・分子レベルでの生物現象の把握を主な目的として、タンパク質や核酸などの有機化合物の多様な働きが生物現象の基本になっていることを理解しようとする。	○	○	○	7
3学期	2節 生命現象とタンパク質 ・タンパク質の多様性および特異性に基づく機能には、タンパク質分子の立体構造が深く関わっていること、タンパク質の立体構造はそのアミノ酸配列によって決まることなどを理解させる。 ・生物にみられる代謝が酵素の触媒作用によって進められていることを理解させる。 ・酵素はタンパク質からできていること、生物体内の化学反応の触媒として働いていること、細胞内外の様々な生物現象と関わっていることを理解させる。 ・酵素の働き方の特質として基質特異性があり、温度、pHなどの影響を受けやすいことを実験を通して探究させる。 ・タンパク質分子が関わる生物現象の例として、細胞膜における物質の輸送、神経系や内分泌系における細胞間の情報伝達のしくみなどがあることを把握させる。	・タンパク質の構造と機能 ・酵素として働くタンパク質 ・物質の輸送や情報伝達に働くタンパク質	【知識・技能】 ・タンパク質の基本的な構造・性質についての学習を手がかりとして、酵素作用や免疫現象・筋収縮などが、タンパク質の特異性や多様性に基いて展開されていることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・生物体にみられる様々な働きが、酵素による触媒作用をはじめとした、タンパク質の多様性および特異性に基いていることを科学的に考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生命活動にかかわるタンパク質を複数あげ、どのような働きがあるか整理するとともに、主体的に学習に取り組もうとする。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

三宅高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 科 目： 体育 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 併合科 普通科

教科担当者：安井 瑛奈 小高 海穂

使用教科書：（ 新高等 保健体育 大修館書店 ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに。健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知・技	思	態	配当 時数
○体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、健康・安全を確保することができる。	体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に活かす運動の計画	○体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることを言ったり書き出したりしている。リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。体調の維持などの健康の保持増進をねらいとして、各種の有酸素運動や体操などの施設や器具を用いず手軽に行う運動例や適切な食事や睡眠の管理の仕方を取り入れて、卒業後も継続可能な手軽な運動の計画を立てて取り組むことができる。 ○生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案し、他者に伝えている。 ○体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	○	○	○	3
○運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解することができるようにする。 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	体育理論 (7) 運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害 (イ) スポーツの技術と技能及びその変化 (ウ) 運動やスポーツの技能の上達過程	○運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること。期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること。過度な負荷や長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があることを言ったり書き出したりしている。運動やスポーツの技術は、学習を通して技能として発揮されるようになること。技術の種類に応じた学習の仕方があること。現代のスポーツの技術や戦術、ルールは、用具の改良やメディアの発達に伴い変わり続けていることを言ったり、書き出したりしている。運動やスポーツの技能の上達過程にはいくつかの段階があり、その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法などがあること。これらの獲得には、一定の期間がかかることを言ったり、書き出したりしている。 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況を関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見し、他者に伝えようとしている。 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3

1 学 期	○勝敗を競ったりチームや事故の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ○状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防ができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○テニスに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、合意形成に貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い高め合おうということなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	球技 イ ネット型（テニス）	○テニスでは、局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。 ○ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きができる。 ○ボールを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 ○チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付け、仲間に伝えている。 ○作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。	○	○	○	10
	○記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐことができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ○主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようということ、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうということ、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようということなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができる。	水泳 ア クロール イ 平泳ぎ ウ 背泳ぎ エ バタフライ	○水泳では、各種目や運動の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、効率のよい泳ぎにつながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることを言ったり、書いたりしている。 ○肘を曲げて腕全体で水をとらえ、加速するようにかくことができる。（クロール）ブルのかき終わりと同時に、顎を引いて口を水面上に出して息を吸い、キックの蹴り終わりに合わせて、流線型の姿勢を維持して大きく伸びることができる。（平泳ぎ）水平姿勢を維持しながら泳ぐことができる。（背泳ぎ）体のうねり動作に合わせたしなやかなドルフィンキックをすることができる。（バタフライ） ○課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。 ○水泳の学習に主体的に取り組もうとしている。 ○水泳の事故防止の心得を遵守し、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保しようとしている。	○	○	○	10

2 学 期	○勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 ○主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができる。	球技 ウーバースボール型（ソフトボール）	○局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。守備スペースが空いた方向をねらってボールを打ち返すことができる。仲間の走者の動きに合わせて、塁を進んだり戻ったりすること。仲間の送球に対して次の送球をしやすいようにボールを受けることができる。打者の特徴や走者の位置に応じた守備位置に立つことができる。 ○課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について仲間に提案している。 ○仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	○	○	○	12
	○記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ○主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができる。	陸上競技 イ 長距離走	○陸上競技では、各種目の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的な練習の仕方があることを言ったり書き出したりしている。 ○自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じて、ストライドやピッチを切り替えて走ることができる。 ○課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。 ○陸上競技の学習に主体的に取り組もうとしている。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。	○	○	○	13
	○運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解することができるようにする。 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	体育理論 (エ)運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方	○運動やスポーツを行う際は、気象条件の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められることを言ったり書き出したりしている。 ○運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。 運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
	○体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ○主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができる。	体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に活かす運動の計画	○体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることを言ったり書き出したりしている。リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。体調の維持などの健康の保持増進をねらいとして、各種の有酸素運動や体操などの施設や器具を用いず手軽に行う運動例や適切な食事や睡眠の管理の仕方を取り入れて、卒業後も継続可能な手軽な運動の計画を立てて取り組むことができる。 ○生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案し、他者に伝えている。 ○体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	○	○	○	4

○勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ○生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 ○主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができる。	球技 イ ネット型（卓球）	○局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。 ○サーブでは、ボールに変化をつけて打つことができる。変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすることができる。ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。 ○課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見し、仲間に伝えている。 ○仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。	○	○	○	6
	球技 イ ネット型（バドミントン）	○局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。 ○シャトルを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 ○局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることを言ったり書き出したりしている。 ○シャトルを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 ○チームでの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見つけ、仲間に伝えている。 ○バドミントンの学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6

○豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解することができるようにする。 ○豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。 ○豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。	体育理論 (ア)ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方 (イ)ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方 (ウ)スポーツ推進のための施策と諸条件 (エ)豊かなスポーツライフが広がる未来の社会	○スポーツは、各ライフステージにおける身体的、心理的、社会的特徴に応じた多様な楽しみ方があること。また、その楽しみ方は、個人のスポーツに対する欲求などによっても変化することを言ったり書き出したりしている。生涯にわたってスポーツを継続するためには、ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方を見付けること、仕事と生活の調和を図ること、運動の機会を生み出す工夫をすることなどが必要であることを言ったり、書き出したりしている。スポーツの推進は、様々な施策や組織、人々の支援や参画によって支えられていることを言ったり書き出したりしている。人生に潤いをもたらす貴重な文化的資源として、スポーツを未来に継承するためには、スポーツの可能性と問題点を踏まえて適切な「する、みる、支える、知る」などの関わりが求められることを言ったり、書き出したりしている。 ○ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見し、他者へ伝えようとしている。豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。 ○豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2 合計 70
---	---	--	---	---	---	--

年間授業計画

三宅高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教 科： 保健体育 科 目： 保健 単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 併合科 普通科

教科担当者：小高 海穂

使用教科書：（ 新高等 保健体育 大修館書店 ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
○大気汚染による健康への影響について理解する。 ○地球規模で起きている大気環境の問題について理解する。	1. 大気汚染と健康	○人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
○水質汚濁による健康への影響について理解する。 ○土壌汚染による健康への影響について理解する。	2. 水質汚濁・土壌汚染と健康	○人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
○環境汚染による健康への影響を防ぐために行われている対策について理解する。 ○産業廃棄物の処理や新たな環境汚染の課題について理解する。	3. 健康被害を防ぐための環境対策	○健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○健康への影響や被害を防止するために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するためには、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 ○環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1

○安全な水の確保のために必要な上下水道の整備の現状と課題について理解する。 ○生活環境を保全するためのごみ処理の現状と、今後の課題について理解する。	4. 環境衛生に関わる活動	○上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 ○環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
○食品の安全性が損なわれると健康被害が生じる可能性があることを理解する。 ○人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解する。	5. 食品の安全性と健康	○人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。 ○食品と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
○食品の安全性を確保するための行政や生産・製造者の役割について理解する。 ○食品による健康被害を防ぐために私たち消費者が果たす役割について理解する。	6. 食品の安全性を確保する取り組み	○食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○食品衛生に関わる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報を公開、活用するなど行政・生産者・製造者・消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。 ○食品と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1

○保健行政の役割について理解する。 ○健康の保持・増進には保健サービスの適切な活用が必要であることを理解する。 ○医療保険の仕組みについて理解する。 ○医療サービスの適切な活用方法について理解する。	7. 保健制度とその活用 8. 医療制度とその活用	○我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 ○健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
定期考査			○	○		1

○医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについて理解する。 ○医薬品は、使用法に関する注意を守り、正しく使う必要があることを理解する。	9. 医薬品の制度とその活用	○医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
○日本や世界では健康課題に対応した保健活動や対策が行われていることを理解する。 ○国際機関や民間機関などにより行われている様々な保健活動や対策について理解する。	10. 様々な保健活動や対策	○我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に応用している。 ○様々な保健活動や社会的対策について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
○自他の健康の保持・増進には健康を支える環境づくりが重要であることを理解する。 ○健康を支える環境づくりへの積極的な参加が自他の健康につながることを理解する。	11. 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	○自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながることを理解したことを言ったり書いたりしている。 ○ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てている。 ○健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
○思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。 ○思春期に起こりやすい健康課題について理解する。	1. 思春期と健康	○思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1

○自分の行動への責任感や異性の理解と尊重の必要性について理解する。 ○性行動の選択には性情報への適切な対処が必要であることを理解する。	2. 性意識の変化と性行動の選択	○思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自己や社会の課題を発見している。 ○思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
○結婚生活と健康との関係について理解する。 ○結婚生活における夫婦関係、親子関係による健康への影響について理解する。	3. 結婚生活と健康	○結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ○生涯の各段階における健康について、自己や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
○受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題について理解する。 ○妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。	4. 妊娠・出産と健康	○受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ○生涯の各段階における健康について、自己や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
○家族計画の意義について理解する。 ○人工妊娠中絶が心身へ与える影響について理解する。	5. 家族計画	○家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。生涯の各段階における健康について、自己や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2

	○加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題について理解する。 ○若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解する。	6. 加齢と健康	○高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ○生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
定期考査				○	○		1
	○高齢社会における健康課題について理解する。 ○高齢者の暮らしや健康を支えるために必要な社会の取り組みについて理解する。	7. 高齢社会に対応した取り組み	○中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
3学	○働くことの意義と働き方の多様化について理解する。 ○働く人における健康問題について理解する。	8. 働くことと健康	○労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量に変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 ○労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ○労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	1

期	○労働環境の変化に伴い、労働災害の要因も変化していることを理解する。 ○労働災害を防止するための様々な取り組みについて理解する。	9. 労働災害の防止	○労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変わってきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 ○労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ○労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	○職場での心身両面にわたる積極的な健康づくり活動について理解する。 ○働く人の健康には余暇の活用など生活の質の向上も重要であることを理解する。	10. 働く人の健康づくり	○働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて、を理解したことを言ったり書いたりしている。 ○労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ○働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 ○労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ○労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ○労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	定期考査			○	○		1
							合計
							35

科目 器楽A

单位数： 2 单位

使用教科書：（各樂譜

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】音楽に関する知識や技能を働かせ、音楽の表現内容を解釈したり、表現意図をもつことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】主体的に音楽に関する学習に取り組む態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身につけるようにする	音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にすることができるようにする	音楽性豊かな表現を追求する態度を養う

[illegible]

高等学校 令和7年度（2学年用）教科 芸術 科目 構成

教科：藝術

科目：構成

单位数： 2 单位

対象学年組：第 2 学年 F 組～

組

教科担当者：（F組：埜口 さくら）

(組：

(組：

) (組:

組：)

使用教科書：（なし）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】

芸術に関する各教科の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるように

【思考力、判断力、表現力等】

創造的な表現を工夫したり、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたり芸術を愛好する心身を育むとともに、完成を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い

科目 構成

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象と事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し、構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

[illegible]

三宅 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 芸術(美術2) 科目 美術Ⅱ

教科 科： 芸術(美術2) 科目： 美術Ⅱ

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 NK 組～ F 組

教科担当者：（埜口 さくら）

使用教科書：（ 光村図書 美術2

教科 芸術(美術2) の目標：

【知識及び技能】 造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。

【思考力、判断力、表現力等】 主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 美術や芸術文化に親しみ、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

科目 美術Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を個性豊かに創意工夫している。	創造的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考えながら、個性豊かに主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方、感じ方を深めたりする。	感性と美意識を高め、美術や芸術文化に親しみ主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組んでいる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	記 当 時 数
			絵 ・ 彫	デ ザ イ ン	映 画					
1 学 期	①分野「絵画・彫刻」 ②領域「表現中心の題材」 ③題材名「水墨画」 ④目標「墨の表現の豊かさを知り、特性を利用して描く」	・実際に描くことで、墨の表現の豊かさを感じ取らせ、用具用法について指導する。 ・実際に描くことで、墨の表現の豊かさを感じ取らせ、用具用法について指導し、表現の意図、工夫を考えさせ理解を深める。 ・墨の表現ならではの表現を意識させる。濃淡を使い分けてグラデーションを作って描くことを意識づけ、墨のにじみやぼかしなどを生かして描かせる。 ・作品を参考にしたりして、どうすれば墨の特性を生かした表現ができるのか話し合わせながら制作させる。また、自分の作品や制作についての自己評価を行い、用具用法を生かして描く方法について理解を深める。	○		○	【知識】 墨の表現の効果や、造形的な特徴を理解している。 【技能】 意図に応じて材料や用具を選択し、特性を生かし、創意工夫し表現している。 【発想・構想】 墨墨の特性を生かした表現の構想を考えている。 【鑑賞】 墨の表現の豊かさを感じ取り、表現の意図や工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 【表態】 主体的に墨ならではの効果を追求し、表現の創造活動に取り組もうとしている。 【鑑他】 墨の表現による作品の造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の意図や工夫などを考えようとしている。	○		○	4
	①分野「デザイン」 ②領域「表現中心の題材」 ③題材名「ポスター制作」 ④目標「伝えたい内容にふさわしい表現方法を考え、多くの人に伝わるようにデザインを工夫する」	・様々なポスター作品を鑑賞して、ポスターのデザインの目的や機能について理解させる。 ・「伝える」という目的を意識し、必要な情報や、伝える相手の目を想像し、デザインを構想させる。 ・第三者に効果的に伝えるために、お互いのデザインの工夫や意図を話合わせ、他者の意見も取り入れつつデザイン案の決定をさせる。 ・アクリルガッシュ、ポスターカラーの効果や、使用方法、手順について理解させ、適切な表現方法を考えさせる。タブレットで写真を撮影し加工する手法や、注意点を指導する。 ・作品を生徒自身が相互評価し、意図に応じて適切な用具・方法を選択しているか、第三者が見て見やすく、伝わりやすいデザインになっているか、などを考えさせる。		○	○	【知識】 形や色、素材などの効果や配色や構成の特徴をもとに効果的に伝えるためのデザインを理解している。 【技能】 意図に応じて、材料や用具の特性を生かして創造的に表している。 【発想・構想】 伝えたい内容や相手などから、発想し、効果的な表現や文字などの配置、構成、配色などの構想を練っている。 【鑑賞】 デザインの目的や、機能を感じ取り効果的に伝えるための表現の工夫などについて考え、見方や考え方を深めている。 【表態】 主体的に伝える内容や、相手について考え、効果的なデザインの意図や工夫をし、表現しようとしている。 【鑑他】 伝えるためのデザインの意図や工夫について考える鑑賞活動に取り組もうとしている。	○		○	20
	①分野「絵画・彫刻」 ②領域「鑑賞中心の題材」 ③題材名「不思議な空間をつくる」 ④目標「目の錯覚などを利用した不思議な空間を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を感じ取る」	・どんな発想や構想を練られているかなど、視点の独自性を感じ取り、表現の効果について考えさせる。 ・表現効果から、作者の意図や工夫を感じ取る。	○		○	【知識】 効果や、造形的な特徴をもとに新たな認識を与えるような表現の作品を全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【鑑賞】 作品の造形的な良さや、美しさを感じ取り発想や構想の独自性や表現の工夫について多様な目線から考え、見方や感じ方を深めている。 【鑑他】 主体的に作品の造形的な良さや発想や構想の独自性などについて、多様な目線から考え鑑賞活動に取り組もうとしている。	○		○	4
2 学 期	①分野「絵画・彫刻」 ②領域「表現中心の題材」 ③題材名「お皿をデザインする」 ④目標「様々なお皿を鑑賞し、デザインの工夫を感じ取って、形や色を工夫してお皿を制作する」	・陶芸における基礎技法のひとつを理解させ、制作させる。 ・陶芸における基礎技法のたたらづくりを理解させ、制作させる。 ・陶芸における最も難易度の高い電動ろくろの使い方を理解させ、制作させる。 ・教科書、インターネット、書籍の陶芸作品を鑑賞し、陶芸作品の良さを理解させる。 ・制作計画を立てさせる。 ・陶芸三技法の特徴を理解させ、制作させる。 ・鑑賞させて講評を行う。自分の作品の良さや、他者の作品の良さと、工夫をに気づきお互いの良いところを認め合えるようにする。	○	○		【知識】 形や色、材料がもたらす効果や造形的な特徴をもとに、お皿のデザインを、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 【技能】 主題に合わせて形や色、材料、構造などを工夫し、個性豊かで創造的に表している。 【発想・構想】 使う場面や目的などをもとに、社会におけるデザインの機能や効果、作品の形態や表現方法、形や色、材料、構造などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。 【鑑賞】 デザインの目的や機能の調和のとれた美しさなどを感じ取り、発想や独自性や表現の工夫などについて考えるとともに、見方や考え方を深めている。 【表態】 主体的に、使う場面や目的などについて考え、効果的な問題解決のためのデザインを工夫する表現の創造活動に取り組もうとしている。 【鑑他】 主体的にデザインの目的や機能の調和のとれた美しさを感じ取り、表現の意図や工夫について考えとともに、鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。			○	20
	①分野「映像メディア表現」 ②領域「鑑賞中心の題材」 ③題材名「アニメーションで伝える」 ④目標「アニメーションの特質や表現効果など感じ取り、見方や感じ方を深めている」	・アニメーション史において重要な2作品を鑑賞させる。 ・日本のアニメーションと世界のアニメーションを比較させる。 ・技法などにも注目させ、デジタルアニメーションに劣らないアナログアニメーションの魅力を理解させる。 ・世界で評価の高い日本アニメーションを鑑賞させる。 ・日本のアニメーションと世界のアニメーションを比較させる。 ・技法などにも注目させ、近年の世界で注目される日本のアニメーションの魅力を理解させる。		○		【知識】 形や色、材料、光、動きなどが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、アニメーションを、全体のイメージや作風などで捉える事を理解している。 【鑑賞】 アニメーションの特質や表現効果などを感じ取り、それぞれの作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 【鑑他】 主体的にアニメーションの特質や表現効果などを感じ取り、作者の意図や撮影の際の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。			○	6
	①分野「映像メディア表現」 ②領域「表現中心の題材」 ③題材名「アニメーションをつくる」 ④目標「様々な技法によるアニメーションを知り、撮影の仕方を工夫して作品を作る」	・主題から発想し、どのような手順や方法で制作するか考えさせる。 ・インターネットや書籍などで調べ参考にする。 ・撮影機材や、編集ソフトの使い方を指導し、制作の具体的な流れを理解させる。 ・場面展開やシーンのつながり、動きを意識させ全体の色味や、構図などを微調整させる。 ・鑑賞させて講評を行う。意図や工夫反省点などについて意見交換をする。		○	○	【知識】 形や色、材料、光、動きなどがもたらす効果や、造形的な特徴やアニメーション全体の作風で捉えることを理解している。 【技能】 意図に応じて、カメラやタブレットなどの用具の特性を生かし、表現の意図を効果的に表している。 【発想・構想】 映像メディアの特性を生かして表現の主題を生成し、視覚的な要素の働きや動きの変化などを考え創造的な表現の構想を練っている。 【鑑賞】 アニメーションの特質や表現効果などを感じ取り作者の心情や、意図、工夫などを見つめ、見方、感じ方を深めている。 【表態】 主体的に、アニメーションの主題を効果的に表現する活動に取り組もうとしている。 【鑑他】 主体的にアニメーションの良さ、効果などを感じ取り作者の意図や工夫を考える鑑賞活動に取り組もうとしている。	○		○	16 合計 70

年間授業計画

三宅高等学校 令和7年度（2学年用）教科

芸術 科目 音楽Ⅱ

教科：芸術 科目：音楽Ⅱ

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 N・K組

教科担当者：（紺野 鷹生）

使用教科書：（教育芸術社：MOUSA）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現をしたり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたる音楽を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	意	記 時 数
			歌	器	創					
1 学 期	A ソルフェージュ ・視唱に関する知識や技能を身に付けさせる ・音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力をつける ・音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にさせる	・リズムを正確に読む ・メロディーを階名で歌う ・リズムを聴き取る ・リズムを正確に打つ ・リズムを打ちながらメロディーを歌う ・音を聴き取る ・互いに聞きあいながらリズムを打つ	○		○	【知識・技能】 曲想と音楽の構造について理解している 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想と音楽の構造に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている	○	○	○	14
	B ・どのような曲か理解させる ・歌詞の意味を理解させる ・作曲者について知る ・歌う時の表現方法を考えさせる ・歌詞と旋律の情景を考えさせる ・楽語を覚えさせる ・音程を付けずにリズムで歌わせる ・鼻濁音、子音を意識させる ・歌詞で歌わせる	SUN	○		○	【知識・技能】 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解するとともに創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使用などの技能を身に付け、歌唱で表している 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている	○	○	○	8
	C ・どのような曲か理解させる ・自分の担当するパートを決めさせる ・確認みをさせる ・他のパートを聴きながらアンサンブルをさせる ・メトロノームを使用して適切なテンポで演奏できるようにさせる	・シンコペーテッドクロック ・人生のメロゴーランド	○		○	【知識・技能】 曲想と音楽の構造及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解するとともに、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使用などの技能を身に付け、器楽で表している 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、どのように表現するかについて独自の表現意図をもっている 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想と音楽の構造によって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている	○	○	○	15
2 学 期	D ・楽器の構造について理解させる ・組み立て方について理解させる ・構え方について理解させる ・パチの使い方について理解させる ・文化理解について理解させる ・どのような曲か理解させる ・確認みをさせる ・伴奏に合わせて演奏させる ・伴奏をよく聴き演奏させる	三味線	○		○	【知識・技能】 曲想と和楽器の音色や奏法との関わりによって生み出される表現上の効果について理解するとともに、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使用などの技能を身に付け、器楽で表している 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考え、どのように表現するかについて独自の表現意図をもっている 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想と和楽器の音色や奏法との関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている	○	○	○	5
	E 映画音楽について学び、映画や楽曲を鑑賞させる	映画『ハリー・ポッターと賢者の石』			○	【知識・技能】 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している 【思考・判断・表現】 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組んでいる	○	○	○	2
	F ・『オペラ座の怪人』のストーリーについて理解させる ・今後の授業で歌唱をする曲について特に注目して鑑賞させる	オペラ座の怪人	○		○	【知識・技能】 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している 【思考・判断・表現】 様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使用などについて理解している	○	○	○	7
	G ・ドイツ語の発音の仕方を理解させる ・曲について理解させる ・確認みをさせる ・曲にふさわしい発声、言葉の発音について意識させる	歌唱『Sehnsucht nach dem Frühling』	○			【知識・技能】 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している 【思考・判断・表現】 様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使用などについて理解している	○	○	○	3

[illegible]

英語コミュニケーションⅢ

单位数： 2 单位

組

使用教科書： (COMET English Communication II

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】論理的・客観的に物事を理解し、様々な話題に関して自分の意見を英語で表現する方法を身につけさせる

【学びに向かう力、人間性等】英語に興味を持たせ、生徒自身の可能性に気付かせるとともに、高校卒業後も自ら学び続けられるような動機づ

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
単語や熟語、文法、文構造等の基礎・基本的な知識を習得する	様々な話題に関して、情報や考えなどをよりの確に理解したりより適切に詳細を伝えたりする力を養う	教科書の単元で扱われる話題を実際の生活と結び付けて、英語に興味を持たせる

[illegible]

科目 英語コミュニケーションⅡ

單位數： 4 單位

使用教科書：（ COMET English Communication II ）

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】 英語に興味を持たせ、生徒自身の可能性に気付かせるとともに、高校卒業後も自ら学び続けられるような動機づけをする

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

[illegible]

科目 英語演習 I

单位数： 2 单位

組～ 組

(組:

)

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】大学受験につなげるための基礎的な読解力、リスニング能力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】粘り強く技能の獲得に取り組む。反復練習を継続して基礎固めをする。

科目 英語演習Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
課題や演習問題で出てきた単語、文法知識を確実にする。	一定量の文章を一定時間内に読解し、的確に内容把握できる。同様にリスニングにおいても的確に内容把握できる。	授業の活動や宿題に、積極的に継続して取り組める。

[illegible]

高等学校 令和7年度（農業科2学年用）教科 農業 科目 野菜

教科 農業 の目標：

【思考力、判断力、表現力等】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。

科目 野菜 の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第4章果実を利用する野菜の栽培 ④キュウリ ⑤エダマメ ○代表的な果実を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎知識を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体系的に身に付ける	○果実を利用する野菜の栽培 ④ キュウリ ⑤ エダマメ	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○	○	15
	第1章野菜生産の役割と動向 ①野菜の種類と利用 ○野菜栽培を学ぶ上で基礎となる野菜の種類と特徴による名称の違いを理解し、今後野菜について学んでいく中で必要となる知識を身に付ける	○野菜生産の役割と動向 ①野菜の種類と特徴 1ー① 野菜の種類と利用 1ー② 野菜の分類	○野菜の分類や特徴による名称の違いを理解している ○地域特産の野菜や通常は栽培されていない品種などに興味を持ち、野菜の多様性を理解する	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	第4章果実を利用する野菜の栽培 ②ナス 代表的な果実を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎知識を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体系的に身に付ける	○果実を利用する野菜の栽培 ② ナス	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○		10
2 学期	第1章野菜生産の役割と動向 ②野菜の消費と動向について現代社会の変容を意識しながら体系的に理解し、農業を取り巻く産業の動きについて興味をもって調べられる。	○野菜生産の役割と動向 ② 野菜の消費 1ー① 消費動向の変化 2ー② 野菜の消費量 2ー③ 消費の多様化	○野菜の栽培技術の中でも、特に重要な育苗技術についてその種類や産業の動向について理解している ○各種育苗技術の原理やその利用法について理解し、野菜だけではなく植物を生産する現場全体で利用されていることを理解する	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	第4章果実を利用する野菜の栽培 ①トマト ③スイートコーン ○代表的な果実を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎地租機を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体系的に身に付ける	○果実を利用する野菜の栽培 ① トマト ③ スイートコーン	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○	○	15
	第1章野菜生産の役割と動向 ③野菜の生産と供給 ○野菜の生産と供給のしくみについて、農作物が生産者から消費者に渡るまでの様々な仕組みを知り、実際の様子を調べるときを農産を学ぶ上での基礎知識を身に付ける	○野菜生産の役割と動向 ③野菜の生産と供給 1ー①野菜の生産と供給のしくみ 1ー② 野菜栽培と生産動向 1ー③ 野菜の輸入と輸出 1ー④ 野菜の流通 1ー④ 知的財産の保護	○野菜の流通の実態を学び、成果物の鮮度を保持する技術やその仕組み、また野菜の鮮度が落ちる仕組みについて理解できる ○野菜の流通にかかわる様々な技術に興味を持ち主体的に学び知識を深めることができる	○	○		10
3 学期	定期考査			○	○		1
	第5章花や花茎を利用する野菜 ②ハクサイ ⑦ネギ 代表的な花や花茎を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎知識を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体系的に身に付ける	○葉や花茎を利用する野菜の栽培⑦ ハクサイ ネギ	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	第4章果実を利用する野菜の栽培 ③ピーマン ○代表的な果実を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎地租機を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体系的に身に付ける	○果実を利用する野菜の栽培 ③ ピーマン	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○		6
3 学期	第5章花や花茎を利用する野菜 ①キャベツ ④ブロッコリー 代表的な花や花茎を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎知識を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体系的に身に付ける	○葉や花茎を利用する野菜の栽培④ ① キャベツ ④ ブロッコリー	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○		8
	定期考査						
	第1章野菜生産の役割と動向 ④野菜の安全性 ○安全・安心な野菜を生産する上無農薬や有機栽培といった方法を行う難しさとそれを可能にする様々な技術に興味を持ち実践に生かす	○野菜生産の役割と動向 ④ 野菜の安全性 1ー①野菜の安全性 4ー②安全・安心な野菜 4ー③農薬にやさしい野菜栽培 4ー④生活の中の野菜栽培	○有機栽培や無農薬といった農業の方法について興味を持ち、自ら調べることができる ○無農薬や有機栽培の意義やそこに生かされる技術について理解する				6
	第5章花や花茎を利用する野菜 ⑥ホウレンソウ 代表的な花や花茎を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎知識を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体系的に身に付ける	○葉や花茎を利用する野菜の栽培⑥ ⑥ ホウレンソウ	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○		6
定期考査				○	○		1
							合計
							105

年間授業計画

三宅高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 農業 科目 草花

教科 科： 農業 科 目： 草花 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 N 組

教科担当者：石井 陽次

使用教科書：（ 草花（実教出版） ）

教科 農業 の目標：

- 【知識及び技能】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、探究的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、対応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

科目 草花 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章「草花」とプロジェクト学習 【知識及び技能】 草花生産と経営に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 草花生産と経営に関する課題を発見し、プロジェクト学習により科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。 【学びに向かう力、人間性等】 草花生産と経営について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むこと。	草花とプロジェクト学習 (1) プロジェクト学習とは (2) プロジェクトの進め方 (3) 草花におけるプロジェクト学習	【知識・技能】 1年次「農業と環境」で習得したプロジェクト学習の方法を踏まえ、課題設定、計画立案、実施、まとめ（反省と評価）の一連の流れを立てることができるか。 【思考・判断・表現】 科学的な見方と、自ら課題意識をもち、その課題を解決しようとしているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 草花生産の現状について自分の意見を踏まえ、問題点を抽出・整理することができるか。また、改善策を導き出そうとしているか。	○	○	○	6
	第7章花壇用草花生産 【知識及び技能】 春まき一年草の種類と特徴を理解し、種子の大きさと発芽特性に応じて播種作業をすること。 【思考力、判断力、表現力等】 種子の大きさと発芽特性に応じて播種方法を検討すること。 【学びに向かう力、人間性等】 種子袋から、植物にあった播種・育苗方法をとらえること。	1. 花壇用草花生産の特色 (2) 花壇用草花の種類 3. 花壇用草花の栽培 (1) ペチュニア (7) その他の花壇用草花 ニチニチソウ・マリーゴールド	【知識・技能】 春まき一年草の種類と特徴を理解し、種子の大きさと発芽特性に応じて播種作業をすることができるか。 【思考・判断・表現】 種子の大きさと発芽特性に応じて播種方法を検討することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら実習に取り組もうとしているか。自分の作業を振り返り、反省点を挙げて改善しようと取り組んでいるか。	○	○	○	12
	第7章花壇用草花生産 【知識及び技能】 春まき一年草の種類と特徴を理解し、特性に応じて鉢上げ作業や植え付けをすること。 【思考力、判断力、表現力等】 草花の特徴を踏まえたうえで花壇のデザインを設計すること。 【学びに向かう力、人間性等】 鉢上げ作業や植え付け作業において、設計に沿って施工し、見栄えの良いものを施工しようとする。	1. 花壇用草花生産の特色 (2) 花壇用草花の種類 3. 花壇用草花の栽培 (1) ペチュニア (7) その他の花壇用草花 ニチニチソウ・マリーゴールド	【知識・技能】 春まき一年草の種類と特徴を理解し、適切な鉢上げ作業や植え付け作業ができるか。 【思考・判断・表現】 草花の高さや色合いなどの特徴を踏まえ、花壇のデザインが設計できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループで協力して作業を行うことができているか。レポート課題を期限以内に提出できているか。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第7章花壇用草花生産 【知識及び技能】 秋まき一年草の種類と特徴を理解し、種子の大きさと発芽特性に応じて播種作業をすること。 【思考力・判断力・表現力等】 種子の大きさと発芽特性に応じて播種方法を検討すること。 【学びに向かう力、人間性等】 種子袋から、植物にあった播種・育苗方法をとらえること。	1. 花壇用草花生産の特色 (2) 花壇用草花の種類 3. 花壇用草花の栽培 (2) パンジー・ビオラ (3) ハボタン (4) ベゴニア (7) その他の花壇用草花	【知識・技能】 秋まき一年草の種類と特徴を理解し、種子の大きさと発芽特性に応じて播種作業及び鉢上げ作業をすることができるか。 【思考・判断・表現】 種子の大きさと発芽特性に応じて播種方法を検討することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら実習に取り組もうとしているか。 自分の作業を振り返り、反省点を挙げて改善しようとしているか。	○	○	○	20
	第5章切り花生産 【知識及び技能】 切り花生産に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 【思考力・判断力・表現力等】 露地栽培と施設栽培、促成栽培と抑制栽培などの各種作型を理解させ、地域の環境や施設利用を考慮した栽培計画を立てさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 草花の生理的・生態的な特性や栽培に適する環境について理解させるとともに、切り花生産の施設・設備・資材について有効利用が図れるように指導する。	3. 一・二年草の切り花 (1) 一・二年草の切り花の種類と特性 (2) トルコギキョウ (6) デルフィニウム 4. 宿根草の切り花 (1) 宿根草の切り花の種類と特性 (2) キク (5) ガーベラ (9) その他の宿根草の切り花	【知識・技能】 秋まき一年草の種類と特徴を理解し、種子の大きさと発芽特性に応じて播種作業及び鉢上げ作業をすることができるか。 【思考・判断・表現】 種子の大きさと発芽特性に応じて播種方法を検討することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら実習に取り組もうとしているか。 自分の作業を振り返り、反省点を挙げて改善しようとしているか。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第5章切り花生産 【知識及び技能】 切り花生産に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 【思考力・判断力・表現力等】 露地栽培と施設栽培、促成栽培と抑制栽培などの各種作型を理解させ、地域の環境や施設利用を考慮した栽培計画を立てさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 草花の生理的・生態的な特性や栽培に適する環境について理解させるとともに、切り花生産の施設・設備・資材について有効利用が図れるように指導する。	2. 切り花の品質保持 (1) 切り花の品質変化 (2) 切り花の品質管理技術 6. 花木の切り花 (2) 花木の切り花の種類と特性	【知識・技能】 花木の種類と特徴を理解し、剪定及び管理作業をすることができるか。 【思考・判断・表現】 地域の環境にあった花木の種類や、花木の管理方法について検討することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら実習に取り組もうとしているか。 自分の作業を振り返り、反省点を挙げて改善しようとしているか。	○	○	○	13
	第6章鉢ものの生産 【知識及び技能】 鉢ものの生産に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得を図る。 【思考力・判断力・表現力等】 鉢ものの生産の特色を理解させ、地域の環境や施設利用を考慮した生産計画を立てさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 育苗管理・栽培管理は、経験が必要な技術が多く、反復練習が大切であることを理解させ、実習を通して修得させる。	4. ラン類 (1) ラン類の種類と特性 (2) フェレノプシス (3) シンビジウム (4) カトレア類 (6) その他の洋ラン	【知識・技能】 観葉植物及びラン類の種類や特徴を理解し、管理作業ができるか。 【思考・判断・表現】 地域の環境にあったランの種類や、ラン類の管理方法について検討することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら実習に取り組もうとしているか。 自分の作業を振り返り、反省点を挙げて改善しようとしているか。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
						合計	105

三宅高等学校 令和7年度(2学年用) 教科 野菜 科目 園芸利用Ⅱ

教科： 農業 科目： 園芸利用Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 F 組～ 組

教科担当者：中嶋 龍也、坂本 三郎 (組：) (組：) (組：) (組：)

使用教科書：(実教出版「野菜」)

教科 農業 の目標：

【知識及び技能】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向け、探究的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、対応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

科目 園芸利用Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①野菜の栽培に関する基礎的な知識を理解している ②野菜の栽培に実際に関わる中で栽培技術や生育の観察を正しく行えている。	①野菜の製造と特性、加工の原理を学び、栽培する際の品質と生産性の向上を図ることについて思考できる。 ②野菜の栽培に関わる中で野菜の状況をつぶさに観察し、その変化の原因について考察ができる。	①積極的に授業に参加し野菜の栽培に関する知識の習得が行える ②グループワークにおいて積極的にコミュニケーションをとり対話によって考えを深めていく。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第4章果実絵を利用する野菜の栽培 ⑤温室メロン ⑥スイカ ○代表的な果実を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎知識を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体験的に身に付ける	○果実を利用する野菜の栽培 ⑤ 温室メロン ⑥ スイカ	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している。 ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○	○	8
	第2章野菜の品種改良と繁殖 3 育苗技術の実際と方法 ○育苗の目的と方法について苗が発芽する原理を理解し、実際に行われている様々な技術を実習を通して観察することで体験的に理解を深める	○野菜の品種秋漁と繁殖 3 育苗技術実際と応用 3－③ つぎ木育苗技術 3－④セル成型苗生産とその利用	○野菜の栽培技術の中でも、特に重要な育苗技術についてその種類や産業の動向について理解している。 ○各種育苗技術の原理やその利用法について理解し、野菜だけではなく植物を生産する現場全体で利用されていることを理解する	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	第4章果実絵を利用する野菜の栽培 ⑦カボチャ ○代表的な果実を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎知識を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体験的に身に付ける	○果実を利用する野菜の栽培 ⑦ カボチャ	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している。 ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○		4
	第2章野菜の品種改良と繁殖 3 育苗技術の実際と方法 ○育苗の目的と方法について苗が発芽する原理を理解し、実際に行われている様々な技術を実習を通して観察することで体験的に理解を深める	○野菜の品種秋漁と繁殖 3－⑤ 栄養系苗生産とバイオテクノロジー	○野菜の栽培技術の中でも、特に重要な育苗技術についてその種類や産業の動向について理解している。 ○各種育苗技術の原理やその利用法について理解し、野菜だけではなく植物を生産する現場全体で利用されていることを理解する	○	○	○	6
2 学 期	定期考査			○	○		1
	第4章果実絵を利用する野菜の栽培 ⑩スイートコーン ○代表的な果実を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎知識を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体験的に身に付ける	○果実を利用する野菜の栽培 ⑩ スイートコーン	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している。 ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○	○	8
	第7章野菜の流通と鮮度保持 1 野菜の流通と鮮度保持 ○野菜の流通と経営改善について農家の経営に関する様々な知識を学び、実際の農業にかかる労力や費用について実習を通して体験的に理解する。	○野菜の品種秋漁と繁殖 1－③育苗技術の実際と応用 1－⑥企業による苗生産・苗販売 1－⑦企業的苗生産の実際	○野菜の流通の実際を学び、成果物の鮮度を保持する技術やその仕組み、また野菜の鮮度が落ちる仕組みについて理解できる。 ○野菜の流通にかかわる様々な技術に興味を持ち主体的に学び知識を深めることができる	○	○		6
	定期考査			○	○		1
	第4章果実絵を利用する野菜の栽培 ⑧イチゴ ○代表的な果実を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎知識を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体験的に身に付ける	○果実を利用する野菜の栽培 ⑧ イチゴ	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している。 ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1

3 学 期	第4章果実絵を利用する野菜の栽培 ⑦カボチャ ○代表的な果実を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎知識を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体験的に身に付ける	○果実を利用する野菜の栽培 ⑦ カボチャ	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している。 ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○		6
	第5章花や花茎を利用する野菜 ⑦ネギ 付録①バジル 代表的な花や花茎を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎知識を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体験的に身に付ける	○葉や花茎を利用する野菜の栽培 ⑦ ネギ 付録 ①バジル		○	○		8
	第7章野菜の流通と鮮度保持 2 加工業務用野菜 ○野菜の流通と経営改善について農家の経営に関する様々な知識を学び、実際の農業にかかる労力や費用について実習を通して体験的に理解する。	○野菜の流通と経営改善 2 加工業務用野菜 ①加工業務用野菜の現状 ②加工業務用野菜の特徴 ③加工業務用野菜の生産販売					3
	第5章花や花茎を利用する野菜 付録④あすばらが s 代 表的な花や花茎を利用する野菜の栽培方法について座学を通して基礎知識を身に付け、実際の栽培を通して実践的な技術を体験的に身に付ける	○葉や花茎を利用する野菜の栽培 付録 ④アスパラガス	○各野菜の特徴とその産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け野菜栽培の社会的な役割を理解している ○野菜のもつ生育の特性を理解しそれぞれに合った栽培法やその原理について理解している。 ○野菜栽培の実際に興味・関心を持ち積極的に実習に参加しその内容を正確に記録している。	○	○		4
	定期考査			○	○		1
							合計 70

年間授業計画

三宅 高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 家庭 科目 フードデザイン

教 科： 家庭 科 目： フードデザイン 単位数： 4 単位

対象学年組：第 2 学年 家政科

教科担当者： 山田祥吾

使用教科書：（ フードデザイン （教育図書） ）

教科 家庭

の目標：

【知 識 及 び 技 能】

人間の生涯にわたる発達と食生活の営みを総合的に捉え、「食」の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、食生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

家庭や地域及び社会における食生活の中から問題や課題を見いだして解決策を考え、考察したことを論理的に表現するなど、生涯を見通して食生活の問題や課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたり健康に生活するための食生活の構築に向けて、地域社会ともかかわり、自分や家庭、地域の食文化も学び、食を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 フードデザイン

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。	人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、食育の推進に他と協働して取り組むことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	第1章食生活と健康 ・食事の基本的な意義を理解させる。 ・家族、友人等集団での食事を共にすることの意義など、食事に関わる利点を再確認させる。 ・現代の食に関する問題点を把握させる。 ・健康維持のために食事がどのように大切かを理解させる。 ・各国の食料自給率を通して、日本における食料生産の問題点を考えさせる。 ・市場にあふれる食材の背景にあるものに気づき、食料の価値を考える。 ・地球環境の保全、生物連鎖と食生活との関わりについて理解し、環境保全、資源の有効活用を意識を高め、日常の生活行為を見直させる。	第1章 食生活と健康 1節 食事の意義と役割 1項 からだをつくる食事 2項 食生活を豊かにする食事 2節 食をとりまく現状 1項 栄養摂取の変化と現状 2項 生活習慣病と欠食 3項 ライフスタイルの変化 4項 食料自給率と食品ロス 5項 食品の安全性と環境の変化	【知識・技能】 ・食事は、栄養を供給し、生命の維持や健康の保持増進を図ると同時に、精神的な役割や文化的な役割を果たしていることが理解できる。 ・日本の食生活の現状の問題が理解できる。 ・現代の食生活の現状について、情報を収集・整理し、考えをまとめることができる。 ・五大栄養素などの種類とはたらきについての知識を習得することができる。消化・吸収について理解している。 ・食品ごとのアミノ酸スコアを計算することができる。 ・基礎的な調理題材について、計画し、つくることことができる。 【思考・判断・表現】 ・心身ともに健康で豊かな食生活を営むための食事のあり方について思考を深め、自分の食生活の現状を判断することができる。 ・からだの中でそれぞれの栄養素がどのようなはたらきをしているのかを考えることができる ・作成した献立に適した食品を選択する事ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分自身の食生活や日本の食生活の現状に関心を持ち、改善しようとする意欲が感じられる。 ・炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルなどの種類とはたらき、栄養素の消化のしくみに関心を持とうとしている。 ・機能性成分にはどのようなものがあるか知ろうとしている。	○	○	○	16
	第2章 栄養素の働きと食事計画 ・人間が食品の摂取により栄養をどのように取り入れていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され、活用されていくかを把握させる。 ・各種栄養素の特徴と体内でのはたらき、代謝について理解させる。 ・アミノ酸評価パターン、アミノ酸スコアについて理解させる。	第2章 栄養素の働きと食事計画 1節 栄養素のはたらき 1項 食物の摂取と栄養 2項 炭水化物 3項 脂質 4項 たんぱく質 5項 ミネラル 6項 ビタミン 7項 その他の食品成分 8項 エネルギー	【知識・技能】 ・乳幼児期から高齢期までの各ライフステージごとの栄養の特徴、食生活上の留意事項について理解できる。 ・調理を前提として、よりよい食品を見きわめ、購入することができる。 ・食品を衛生的に取り扱うことができる。 ・食品の生産・流通・加工などの現状が理解できる。 ・食品の衛生と安全に関する基本的な知識を身につけている。	○	○	○	24
	第6章 フードデザイン実習 ・調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかせる。 ・基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。	第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 1項 日常食の献立作成条件 2項 日常食の献立作成の手順		○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	第2章 栄養素の働きと食事計画 ・各自及び家族の生活について、健康増進のための食生活の視点から考えさせる。 ・栄養に偏りのある食事内容について改善計画を考えさせ、食生活を向上させる。 ・各ライフステージごとの栄養上の注意点を把握させる。	第2章 栄養素の働きと食事計画 2節 ライフステージと栄養 1項 乳幼児期の栄養 2項 青少年期の栄養 3項 成人期の栄養 4項 高齢期の栄養 3節 食事摂取基準と食事計画 1項 日本人の食事摂取基準 2項 食事計画		○	○	○	20

2 学 期	4章 調理の基本 ・何のために調理するのかを理解させる。 ・おいしさにかかわる条件を知り、調理にいかせるようにする。 ・だし、味覚効果、料理の触感や温度、素材の持ち味等おいしさに関わる要素を理解し、調理にいかせる。 ・計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具ごとの特徴などについて、具体的な知識と技術を身につけさせる。 ・調味に関する基本的な知識を習得させる。	4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ 1項 調理の目的 2項 食べ物のおいしさ 2節 調理操作 1項 非加熱操作 2項 加熱操作 3項 加熱調理器具 3節 調味操作 1項 調味の目的 2項 調味をする段階	・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について知識を習得することができる 【思考・判断・表現】 ・各ライフステージに応じた望ましい食生活を判断することができる。 食品について安全や衛生に配慮した適切な判断ができる。 ・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持とうとしている。 ・食品の特性を図表などから科学的に考察できる。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化を実験を通して観察し、考察することができる。	○	○	○	24
	第3章 食品の特徴・表示 ・様々な食品について、それぞれの特徴を把握させる。 ・これらの食品について、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理にいかせる。	第3章 食品の特徴・表示 1節 食品の特徴と性質 1項 穀類 2項 いも類 3項 砂糖 4項 豆類 5項 種実類 6項 野菜類	【主体的に学習に取り組む態度】 ・調理の目的について、安全性、栄養、嗜好、心身の健康などの面から関心を持ち、学ぼうとする意欲が感じられる。 ・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持とうとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第3章 食品の特徴・表示 ・穀類、砂糖、大豆・豆製品、野菜、果物、海藻類、魚介類、肉類、卵、乳・乳製品、油脂、調味料、香辛料等様々な食品について、それぞれの特徴を把握させる。 ・これらの食品について、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理にいかせる。 ・加工食品の加工方法や種類について理解させる。 ・特定保健食品などについて把握させる。	第3章 食品の特徴・表示 1節 食品の特徴と性質 7項 くだもの類 8項 きのご類 9項 海藻類 10項 魚介類 11項 肉類 12項 卵類 13項 牛乳・乳製品 14項 油脂類 15項 かんてん・ゼラチン 16項 し好食品 17項 調味料・香辛料 18項 加工食品と加工方法 19項 特別用途食品と保健機能食品	【知識・技能】 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を習得することができる。 ・具体的な食事テーマの設定、目的に応じた献立作成、献立に適した食品の選択、食品の調理性を踏まえた適切な調理について、理解できる。 【思考・判断・表現】 ・食品の特性を図表などから科学的に考察できる。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化を実験を通して観察し、考察することができる。 ・具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。 ・作成した献立に適した食品を選択する事ができる。	○	○	○	24
	第6章 フードデザイン実習 ・栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。 ・これまで身につけた知識を調理にいかし、手際よくつくり出ることができるようにする。 ・基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。	第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 1項 日常食の献立作成条件 2項 日常食の献立作成の手順 3項 供応食・行事食 3項 テーマ設定と調理実習	【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持とうとしている。 ・食事のテーマにふさわしい献立を行おうとする意欲・関心が感じられる。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
						合計	140

三宅 高等学校 令和7年度（2学年用） 教科		家庭	科目	保育基礎
教 科：	家庭	科 目：	保育基礎	単位数： 4 単位
対象学年組：	第 2 学年	家政科		
教科担当者：	山田祥吾			
使用教科書：	（ フードデザイン （教育図書） ）			
教科	家庭	の目標：		
【 知 識 及 び 技 能 】	人間の将来にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。			
【思考力、判断力、表現力等】	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。			
【学びに向かう力、人間性等】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。			

科目	保育基礎	の目標：
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。
		子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	1 章 子どもの保育 ○保育の意義と重要性について、幼稚園教育要領や保育所保育指針を取り上げながら扱い、保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。 ○保育者にはどのような資質が求められるか、またそれを身につけるにはどのようにしたらよいかなど、保育者観についての考察を深める。 ○家庭での保育の現状や、幼児教育・保育の場（幼稚園や保育所、認定こども園など）の保育環境の特徴や役割を理解する。 ○子どもを取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解し、子どもの健やかな発達のために適切な保育環境について考察する。	1 章 子どもの保育 1 節 保育の意義 1 保育とは 2 保育の意義 2 節 保育の方法 1 保育者の役割とは 2 一人ひとりに合わせた指導 3 節 保育の環境 1 家庭での保育 2 幼児教育・保育の場 3 子どもが育つ環境の変化と課題	【知識・技能】 ○保育者の役割を理解し、その資質や能力を身につけるにはどのような点に気をつけていけばよいかなど、考察ができる。 発達時期の特性を考慮した保育の工夫が必要であることを理解している。 ○胎児の生育環境である母体に対する関心と課題意識を高めている。乳幼児の身体的特徴と生理的特徴及びその変化に関する知識を身につけている。 ○子どもの心の発達の特徴と発達の経過について理解している。 ○人間関係の発達については乳児期の愛着の発達が重要であり、安全基地を土台として人間関係が広がっていくことを理解している。	○	○	○	24
	2 章 子どもの発達 ○乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個性といった特性があることを理解する。 ○乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。 ○心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係のひろがりについて考える。 ○知的発達、言葉の発達、社会性・情緒など様々な側面から、子どもの心の発達をとらえる ○誕生～乳児期・幼児期の発達の過程を、それぞれの月齢・年齢ごとの発達に沿った子どもの姿を通して理解する。	2 章 子どもの発達 1 節 子どもの発達の特性 1 発達と保育 2 発達の共通性と個性 2 節 子どものからだの発達 1 発育・発達の評価 2 身体的特徴 3 生理的特徴 3 節 子どもの心の発達 1 社会・情緒的な発達 2 知的発達 3 言葉の発達 特集 月齢、年齢別の発育・発達	【思考・判断・表現】 ○子どもを取り巻く環境が子どもの発達に大きな影響を与えることを理解し、発達段階における発達課題に応じて、接し方・援助の仕方・適切な保育環境整備について述べている。 ○それぞれの月齢・年齢ごとの身体的・生理的特徴に関心を持ち、保育に関連づけて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
2 学 期	3 章 子どもの生活 ○子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。 ○乳幼児期の栄養や食事(乳汁栄養や離乳食、幼児食など)の特徴を実習を通して理解しする。 ○子どもの衣生活と育児用品について、身体特徴をふまえ、安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。 ○基本的生活習慣と社会的な生活習慣の意義と重要性を理解し、子どもの発達に即した適切な生活習慣とその援助について考察する。 ○子どもの健康管理や事故防止について、健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解する。 ○子どもの事故防止や安全な環境整備にはどのような配慮や準備が必要か具体的事例とあわせて理解する。	3 章 子どもの生活 1 節 子どもの生活と養護 1 生活と健康 2 栄養と食事 3 衣生活 2 節 生活習慣の形成 1 子どもの生活習慣 2 基本的な生活習慣 3 社会的な生活習慣 3 節 健康管理と事故防止 1 子どもの健康管理 2 事故の防止と応急処置	【知識・技能】。 ○子どもの食生活や衣生活について子どもの健康的な生活を支える保育の基礎的な技術を身につけている。 ○子どもの健康状態を見るときポイントや病気の特徴、予防接種について理解している。 ○遊びを通じて子どもが豊かに発達することについて理解している。 ○子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊具等の作成に取り組み、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 ○子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法について思考を深めている。 ○子どもにおこりやすい事故を予測し、その対策を考えることができる。 ○子どもの文化の意義を理解し、それらの役	○	○	○	28

	4章 子どもの文化 ○絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、子どもの健やかな発達とどのような関わりを持つか、その意義について理解する。 ○子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解する。 ○遊びにおける保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにする。	4章 子どもの文化 1節 子どもの文化の意義と支える場 1 子どもの文化 2 子どもの文化を支える場 2節 子どもの遊びと表現活動 1 遊びと発達 2 遊びと表現活動	割や今後の課題について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。 ○子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しようとしている	○	○	○	16	
	定期考査			○	○		1	
3 学 期	4章 子どもの文化 ○子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解する。 ○遊びにおける保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにする	2節 子どもの遊びと表現活動 1 遊びと発達 2 遊びと表現活動	【知識・技能】。 ○子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊具等の作成に取り組み、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につけている。 ・子ども観の変遷や、権利の主体として尊重されつつある状況を理解している。	○	○	○	18	
	5章 子どもの福祉 ○子ども観は国や地域、時代によって変化していることを理解する。 ○時代の変化と共に子どもが権利の主体として尊重する考え方が世界で共有されつつあることを理解する。 ○子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解する。 ○児童憲章や児童の権利に関する条約を通して児童福祉の基本的な考え方を理解し、子どもの幸せとは何かを考える。 ○子どもを地域や社会で支える子育て支援の具体的な場や制度について理解する。また、子育て支援の今後の課題と展望について考察する。	5章 子どもの福祉 1節 子ども観 1 子ども観の変遷 2 権利の主体としての子どもへ 2節 子どもの福祉 1 児童福祉 2 子どもをとりまく課題と対策 3 子どもが育つ社会環境 3節 子育て支援 1 子育て支援からパートナーシップへ 2 社会的養護 3 地域の子育て支援	【思考・判断・表現】 ○子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法について思考を深めている。 ○子どもにおこりやすい事故を予測し、その対策を考えることができる。 ○子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について考察することができる。 ○児童福祉の基本的な考え方について理解し、子どもの幸福について自分の意見や考えをまとめることができる。 ○児童虐待の現状と対策について自分の考えを述べている。 ○子育ての現状をふまえて、これからの子育て支援を考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。 ○子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しようとしている	○	○	○	25	
	定期考査				○	○		1
								合計
							140	

年間授業計画 様式例

三宅 高等学校令和7年度（2学年用）教科 家庭 科目 ファッション造形基礎

教科： 家庭 科目： ファッション造形基礎 単位数： 2 単位
対象学年組： 第 2 学年 家政科
教科担当者： 糸井 蘭葉
使用教科書： （ ファッション造形基礎 （実教出版） ）
教科 家庭 の目標：

- 【知識及び技能】 人間の将来にわたる発達と衣生活の営みを総合的に捉え、「衣服」と社会の関わりについて理解を深め、衣生活を主体的に営むために必要な理解を固るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における衣生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して衣生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の衣生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目	ファッション造形基礎	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技能を身に付けるようにする。	被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッション造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	衣生活の充実を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	衣服の構成 【知識及び技能】 被服材料の種類や特徴、被服製作などについて、繊維、糸及び布の代表的な種類とそれらの特徴、洋服・和服製作について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 被服の構成方法による相違や動作とゆるみの関係性について課題を発見し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ものづくりを通して人々の生活を支え豊かにしていることを認識し、ファッション造形の基礎について進んで学ぶ。	被服材料、被服構成、被服製作、被服管理などについて、実習を通して具体的に理解し、製作する被服のデザインや着用目的に合った被服材料の適切な選択と取り扱いができるようになる。	【知識・技能】 被服材料、被服構成、被服製作、被服管理などについて科学的に理解している。 【思考・判断・表現】 被服の構成方法による相違や動作とゆるみの関係性について課題を発見し、その解決に向けて考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ものづくりを通して、広い視野で衣生活を捉え、よりよいものを製作するために、実践しようとする。	○	○	○	8
	衣服の素材 【知識及び技能】 繊維・糸・布と素材の違いによるそれぞれの特徴、それらの加工や衣服材料の性能について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 素材の中には、さまざまな種類があることを学んだ上で、様々なシチュエーションに対して適切な衣服材料を選ぶことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 衣服材料の特性を理解し、用途を確認しながら、よりよいものを製作するために進んで学ぶ。	・繊維や繊維からなる糸や布の種類と特徴について理解する。 ・保温性、通気性、吸湿性・吸水性、透湿性・防水性など、さまざまな衣服材料の性能を理解する。 ・デザインや着用目的など、用途に合わせた衣服材料を適切に選択する。	【知識及び技能】 繊維・糸・布と素材の違いによるそれぞれの特徴、それらの加工や衣服材料の性能について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 素材の中には、さまざまな種類があることを学んだ上で、様々なシチュエーションに対して適切な衣服材料を選ぶことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 衣服材料の特性を理解し、用途を確認しながら、よりよいものを製作するために実践しようとする。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
2 学 期	洋服の製作 製作の基礎 【知識及び技能】 洋服の構成や用具の適切な使用方法、パターンや原型の種類、布地の性質や扱い方、繊維の基礎を製作過程に実践するために理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 計画した衣服を製作するためにどの布地が適切かを考え、選んだ布地の性質や特性を理解した上で、縫い方や裁ち方、地直しを考える。 【学びに向かう力、人間性等】 製作の準備として、基礎的知識と技術を積極的に学び、着用目的や着用者に合わせて、素材・デザインを決定し、パターンを製作し、裁断・縫製を行い、形としてつくりあげて一通りの製作過程を意欲的に計画する。	・洋服の形態を学ぶ。 ・採寸の手順に加え、パターンや原型の種類ごとに理解する。 ・布地の種類や性質を理解し、それぞれの特徴に合わせた地直しや裁ち方・縫い方を習得する。 ・裁断・縫製に関する基礎的な知識を理解し、技法を習得する。	【知識・技能】 洋服の構成や用具の適切な使用方法、パターンや原型の種類、布地の性質や扱い方、繊維の基礎を製作過程に実践するために理解している。 【思考・判断・表現】 計画した衣服を製作するためにどの布地が適切かを考えることができる。また、選んだ布地の性質や特性を理解した上で、縫い方や裁ち方、地直しを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 製作の準備として、基礎的知識と技術を積極的に学ぶがとしている。また、着用目的や着用者に合わせて、素材・デザインを決定し、パターンを製作し、裁断・縫製を行い、形としてつくりあげて一通りの製作過程を意欲的に計画している。	○	○	○	12
	洋服の製作 製作例（ハーフパンツ） 【知識及び技能】 パターンの展開や原型の特徴など洋服の種類に応じて必要な手順と技を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 製作に必要な技法を取得し、それを自分で表現することができる。また、目的に応じたデザインの決定を行い、課題の解決に向けて、計画的に実習できる。 【学びに向かう力、人間性等】 技法の学びや実践を通して作品製作に積極的に取り組んでいる。着心地への工夫など、自ら課題を見つけ、その解決に向けた工夫を実践する。	・洋服の種類に応じた適切な製作手順を身に付け、デザインを形にできる計画性と技術を向上させる。 ・洋服の製作を通して立体構成や衣服についての理解を深め、基礎的・基本的な知識・技術を習得する。	【知識・技能】 パターンの展開や原型の特徴など洋服の種類に応じて必要な手順と技を理解している。 【思考・判断・表現】 製作に必要な技法を取得し、それを自分で表現することができる。また、目的に応じたデザインの決定を行い、課題の解決に向けて、計画的に実習できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 技法の学びや実践を通して作品製作に積極的に取り組んでいる。着心地への工夫など、自ら課題を見つけ、その解決に向けた工夫を実践しようとする。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
3 学 期	洋服の製作 製作例（ブラウス） 【知識及び技能】 パターンの展開や原型の特徴など洋服の種類に応じて必要な手順と技を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 製作に必要な技法を取得し、それを自分で表現することができる。また、目的に応じたデザインの決定を行い、課題の解決に向けて、計画的に実習できる。 【学びに向かう力、人間性等】 技法の学びや実践を通して作品製作に積極的に取り組んでいる。着心地への工夫など、自ら課題を見つけ、その解決に向けた工夫を実践する。	・洋服の種類に応じた適切な製作手順を身に付け、デザインを形にできる計画性と技術を向上させる。 ・洋服の製作を通して立体構成や衣服についての理解を深め、基礎的・基本的な知識・技術を習得する。	【知識・技能】 パターンの展開や原型の特徴など洋服の種類に応じて必要な手順と技を理解している。 【思考・判断・表現】 製作に必要な技法を取得し、それを自分で表現することができる。また、目的に応じたデザインの決定を行い、課題の解決に向けて、計画的に実習できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 技法の学びや実践を通して作品製作に積極的に取り組んでいる。着心地への工夫など、自ら課題を見つけ、その解決に向けた工夫を実践しようとする。	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1
							合計 70

三宅 高等学校令和7年度（2 学年用）教科

家庭 科目 家庭基礎

教 科： 家庭

科 目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 農業科

教科担当者：糸井蘭菜・山田祥吾

使用教科書：（ 図説 家庭基礎 （実教出版） ）

教科 家庭

の目標：

【知 識 及 び 技 能】

人間の将来にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実の向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 「青年期の自立と家族・家庭」 【知識及び技能】 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・PDCAサイクルにのっとり生活設計について考える。 ・生活にはどのような場面で金銭が必要となるか考える。 ・青年期の生き方について自立の観点から学習する。 ・自己分析をすることで自分らしい生き方について考える。 ・生活を支える労働について学ぶ。 ・将来の職業選択について考える。 ・グラフを見ながら、生活時間について考え、男女の違いについて比較する。 ・これからの家庭生活や社会のあり方について、どのような改善が必要か考え、話し合う。 ・さまざまな家族形態について学ぶ。 ・世帯構成の変化について学習し、現代の家族の課題と支援について、事例をもとに考える。 ・家族に関する法律を知り、その理念や現在の動きについて学ぶ。	【知識・技能】 生涯発達の視点で青年期の課題を理解しているとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	10
	B 「子どもの生活と保育」 【知識及び技能】 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・青年期の健康が将来の生まれてくる子どもにつながっていることを知り、育てる力について学ぶ。 ・子どもの身体の成長について、大まかな流れと特徴を学ぶ。 ・発達の順序や、子どもの世界観について学ぶ。 ・人の発達において、保育や人とのかわりがいかに重要であるかを、事例をもとに考える。 ・子どものよい生活習慣はすこやかな成長を促すことや、子どもの健康管理や安全対策の重要性について学ぶ。 ・おもちゃや絵本などの児童文化財が子どもの発達や生活にどのような影響を及ぼすのかを考える。 ・子どもを生み育てる意義と人間形成の過程について考える。 ・これからの親子関係について、事例をもとに考える。 ・子育てにおける社会環境について考える。 ・仕事と子育てが両立できる環境について考える。	【知識・技能】 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解しているとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	8

	C「共生社会と福祉」 【知識及び技能】 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・介護保険制度について学習する。 ・これからの介護と課題について、事例を用いて考える。 ・福祉、ソーシャル・インクルージョンの考え方を学ぶ。 ・自助、互助、共助、公助の状況に応じたバランスを考える。 ・社会保障制度とその目的について学ぶ。 ・地域福祉の担い手を考え、助け合うことについて学ぶ。 ・ボランティア活動の必要性や意欲について、話し合いを通じて考える。	【知識・技能】 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 【思考・判断・表現】 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
2学期	D「食生活と健康」 【知識及び技能】 ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解するとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・食の食べることと健康のかかわり、現代の食生活の変化と問題点について学習する。 ・5大栄養素と水について学習し、からだとのつながりについて考える。 ・炭水化物の働きと、炭水化物を多く含む食品について学ぶ。 ・脂質の働きと、脂質を多く含む食品について学ぶ。 ・たんぱく質の働きと、たんぱく質を多く含む食品について学ぶ。 ・ビタミンの働きと、ビタミンを多く含む食品について学ぶ。 ・ミネラルの働きと、ミネラルを多く含む食品について学ぶ。 ・味に大きな影響を及ぼす調味料や香辛料、さまざまな加工食品について学ぶ。 ・食品の旬や選択する際のポイント、食品の品質表示について学ぶ。 ・食中毒の種類を学び、衛生的な管理に結びつける。また、食品添加物の使用の目的や安全性についても学ぶ。 ・調理の一連の流れを実践し、その理論やコツを学習する。	【知識・技能】 ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	14
2学期	E「衣生活と健康」 【知識及び技能】 ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解するとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができるようになる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解するとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・人と衣服のかかわりや、衣服の機能について学習する。 ・快適で安全な衣服について学習する。 ・繊維の種類と特徴、糸や布について学習する。 ・衣類素材の性能や加工・改善について学習する。 ・衣服の入手から処分までの流れを学習する。 ・衣服の表示を見ながら、衣服購入のポイントについて考える。 ・洗濯の種類と方法、洗剤のはたらきについて学ぶ。 ・家庭での洗濯方法・保管の方法などについて学ぶ。 ・衣生活と資源・環境とのかかわり、また、環境に配慮した衣生活について学習する。 ・ファストファッションについて、事例を挙げながら話し合い、商品選択の際に心がけることを考える。	【知識・技能】 ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解しているとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	8

期	F「住生活と住環境」 【知識及び技能】 ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解するとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・住まいの機能や文化、生活様式について学習する。 ・基本的な平面図の読み取り方を学習する。 ・生活行為に対応した様々な住空間について学習する。 ・住まいにおけるバリアフリーやユニバーサルデザインについて学習する。 ・ライフステージやライフスタイルに応じた住生活について学習する。 ・快適な室内環境について、日照・採光、通風・換気、騒音・しや音、冷暖房などの要素を学習する。 ・災害や家庭内事故とその対策について学習する。 ・長く住み継いでいくための方法について理解する。 ・環境に配慮した住まいや住環境にするための方法を理解する。	【知識・技能】 ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解しているとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
3 学 期	G「生活における経済の計画」 【知識及び技能】 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・家計の構成（収入・支出）を学習する。 ・現代の家計の特徴について学習する。 ・ライフイベントや生活のリスクなどに備えた、生涯を見通した経済計画と管理について学習する。 ・家計と国民経済・国際経済のつながりについて学習する。	【知識・技能】 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。 【思考・判断・表現】 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	7
	H「消費行動と意思決定」 【知識及び技能】 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・さまざまな契約や主体的な消費行動について学習する。 ・多様な販売方法や、問題商法の種類と対処法について学習する。 ・消費者と事業者の間の力の差を埋めるための制度や法律について学習する。 ・多様化している支払い方法や多重債務の予防と対処について学習する。 ・近年の消費者問題を学び、問題解決のための消費者運動や消費関連の法律を学習する。	【知識・技能】 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解しているとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。 【思考・判断・表現】 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
							合計 70

三宅 高等学校 令和7年度（2,3学年）教科 家庭 科目 食品

教 科： 家庭 科 目： 食品 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 K 組～ 3 学年 N組

教科担当者： （2K：手塚 （3F：手塚

使用教科書： （ ）

教科 家庭 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知 識 及 び 技 能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 食品 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、多様な食品を適切に選択、活用して食生活の向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品の分類とその特徴、食品の機能、食品の表示、食品の加工と貯蔵などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から食品に関する課題を発見し、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	適切な食品の選択や活用の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	食品の特徴と性質 ・植物性食品：米、小麦、とうもろこし、大麦、そば、燕麦について理論的理解をする。 ・動物性食品：魚介類について理論的理解をする。 【知識及び技能】 食品の分類とその特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 食品に関する課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 植物性食品・動物性食品の特徴と性質を理解している。 【思考・判断・表現】 ワークシートに、植物性食品・動物性食品についてまとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークによる相互評価（判別実習がきちんとできている）	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	食品の特徴と性質 ・植物性食品：いも、でんぷん類、砂糖、甘味料の種類と性質について理論的理解をする。 ・動物性食品：卵類、甲殻類と乳製品の性質と活用について理論的理解をする。 【知識及び技能】 食品の分類とその特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 食品に関する課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 植物性食品・動物性食品の特徴と性質を理解している。 【思考・判断・表現】 ワークシートに、植物性食品・動物性食品についてまとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークによる相互評価（判別実習がきちんとできている）	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
2 学 期	食品の特徴と性質 ・植物性食品：野菜類について理論的理解をする。 ・動物性食品：畜肉類について理論的理解をする。 【知識及び技能】 食品の分類とその特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 食品に関する課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 植物性食品・動物性食品の特徴と性質を理解している。 【思考・判断・表現】 ワークシートに、植物性食品・動物性食品についてまとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークによる相互評価（判別実習がきちんとできている）	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	食品の特徴と性質 ・植物性食品：果実類について理論的理解をする。 ・動物性食品：乳類について理論的理解をする。 【知識及び技能】 食品の分類とその特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 食品に関する課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 植物性食品・動物性食品の特徴と性質を理解している。 【思考・判断・表現】 ワークシートに、植物性食品・動物性食品についてまとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークによる相互評価（判別実習がきちんとできている）	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

3 学 期	食品の特徴と性質 加工品やし好品、その他の食品、食品の加工と貯蔵 【知識及び技能】 食品の分類とその特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 食品に関する課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 食品のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む。	・指導事項 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 加工品などその他食品の特徴と性質や食品にあった加工方法・貯蔵方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ワークシートに、植物性食品・動物性食品についてまとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークによる相互評価（判別実習がきちんとできている）	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
							合計 70

三宅高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

教 科： 総合的な探究の時間 科 目： 総合的な探究の時間

対象学年組：第 2 学年 F 組～ NK 組

教科担当者：（ 手塚 博生 ）（ 土田 泰生 ）（ 石川 幸佑 ）（ 小高 海穂 ）

使用教科書：（ なし ）

教科 総合的な探究の時間 の目標：

【知 識 及 び 技 能】いろいろな職業について調べることで、自分を見つめ、自分の生き方を考えるための知識および技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】三宅島の産業と歴史文化を知り、自分と島の未来について考え、表現する。

【学びに向かう力、人間性等】三宅島の現状を認識し、協働により三宅島の復興に取り組む態度をもち、郷土愛と奉仕の心を身につける。

科目 総合的な探究の時間 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな職業について調べることで、自分を見つめ、自分の生き方を考えるための知識および技能を身につける。	三宅島の産業と歴史文化を知り、自分と島の未来について考え、表現する。	三宅島の現状を認識し、協働により三宅島の復興に取り組む態度をもち、郷土愛と奉仕の心を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 課題の設定 【知識及び技能】 自分の身近にある課題を知り、その知識を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の研究課題を設定するため、様々な情報をもとに考え、判断する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に身の回りの課題を発見し、それらを解決したいという態度を身につける。	・総合的な探究の時間とは何か。 ・自身の探究テーマを模索する。 1. 自分の身近にある課題 2. 理想の将来について考える 3. 研究課題を設定する	【知識及び技能】 自分の身近にある課題を知り、その知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の研究課題を設定するため、様々な情報をもとに考え、判断している。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に身の回りの課題を発見し、それらを解決したいという態度を身につけている。	○	○	○	10
	B 情報の収集 【知識及び技能】 課題解決に向けた情報収集の方法について、知識および技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 課題解決にむけてどのような情報を収集すればよいか考え、判断する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に情報を収集し、課題解決に向けて活動する。	・課題解決に向けて、インタビューやアンケートを行い、情報を収集する。 ・情報をもとに不明な点を整理し、地域の方々等に助言をいただく。	【知識及び技能】 課題解決に向けた情報収集の方法について、知識および技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 課題解決にむけてどのような情報を収集すればよいか考え、判断している。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に情報を収集し、課題解決に向けて活動している。	○	○	○	12
2 学 期	B 情報の収集（つづき） 【知識及び技能】 課題解決に向けた情報収集の方法について、知識および技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 課題解決にむけてどのような情報を収集すればよいか考え、判断する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に情報を収集し、課題解決に向けて活動する。	・課題解決に向けて、インタビューやアンケートを行い、情報を収集する。 ・情報をもとに不明な点を整理し、地域の方々等に助言をいただく。	【知識及び技能】 課題解決に向けた情報収集の方法について、知識および技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 課題解決にむけてどのような情報を収集すればよいか考え、判断している。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に情報を収集し、課題解決に向けて活動している。	○	○	○	14
	C 整理、分析 【知識及び技能】 収集した情報をまとめ、分析するための知識および技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 収集した情報をもとに、そこから何が読み取れるか考え、様々な分析手法を使いながら課題解決の方策を判断する。 【学びに向かう力、人間性等】 収集した情報を主体的に整理、分析し、課題解決のために取り組む態度を身につける。	・収集した情報を表やグラフにして整理し、課題解決のためには何が必要なのかを考察する。 ・分析結果をもとに、実際に行動して課題解決に取り組む。 ・さらなる調査が必要な場合は、「B 情報の収集」に戻る。	【知識及び技能】 収集した情報をまとめ、分析するための知識および技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 収集した情報をもとに、そこから何が読み取れるか考え、様々な分析手法を使いながら課題解決の方策を判断している。 【学びに向かう力、人間性等】 収集した情報を主体的に整理、分析し、課題解決のために取り組む態度を身につけている。	○	○	○	16
3 学 期	D まとめ、表現 【知識及び技能】 自身の探究テーマの成果をわかりやすく発表するための手法について、知識や技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 自身の探究テーマの成果をわかりやすくまとめ、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 自身の探究テーマの成果を多くの人に伝え、広めたいという態度を身につける。	・探究の前後で変わったことや探究から学んだことについてまとめる。 ・プレゼンテーション資料を作成し、オンライン大会や校内発表会等の場で発表する。 ・自身の1年間の活動をふりかえる。	【知識及び技能】 自身の探究テーマの成果をわかりやすく発表するための手法について、知識や技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 自身の探究テーマの成果をわかりやすくまとめ、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 自身の探究テーマの成果を多くの人に伝え、広めたいという態度を身につけている。	○	○	○	18
							合計
							70